

学部

2021 年度
「卒業生満足度調査結果の検討」

大学院

2021 年度
「修了生満足度調査結果の検討」

大阪電気通信大学
教育開発推進センター

Center for Educational Development(CED)

目次

学部

学部全体：集計結果	3
2021年度「卒業生満足度調査結果の検討」	5
工学部	
電気電子工学科	6
電子機械工学科	10
機械工学科	16
基礎理工学科	18
環境科学科	20
建築学科	22
情報通信工学部	
情報工学科	24
通信工学科	26
医療健康科学部	
医療科学科	29
理学療法学科	32
健康スポーツ科学科	33
総合情報学部	
デジタルゲーム学科	34
ゲーム&メディア学科	35
情報学科	37
共通教育機構	
人間科学教育研究センター	39
英語教育研究センター	41
数理科学教育研究センター	42

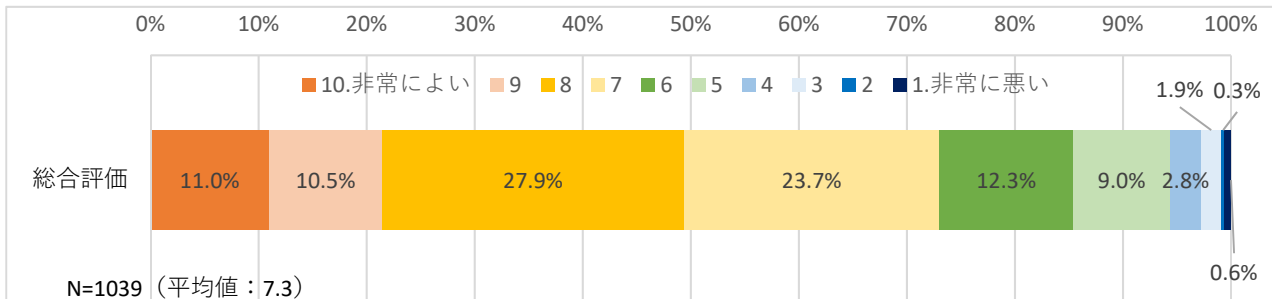
大学院

大学院全体：集計結果	45
2021年度「修了生満足度調査結果の検討」	47
大学院 工学研究科	
先端理工学コース	48
電子通信工学コース	49
制御機械工学コース	50
情報工学コース	51
大学院 総合情報学研究科	
デジタルアート・アニメーション学コース	52
デジタルゲーム学コース	53
コンピュータサイエンスコース	54
大学院 医療福祉工学研究科	
医療福祉工学専攻	55

2021年度 卒業生満足度調査

学部全体：集計結果

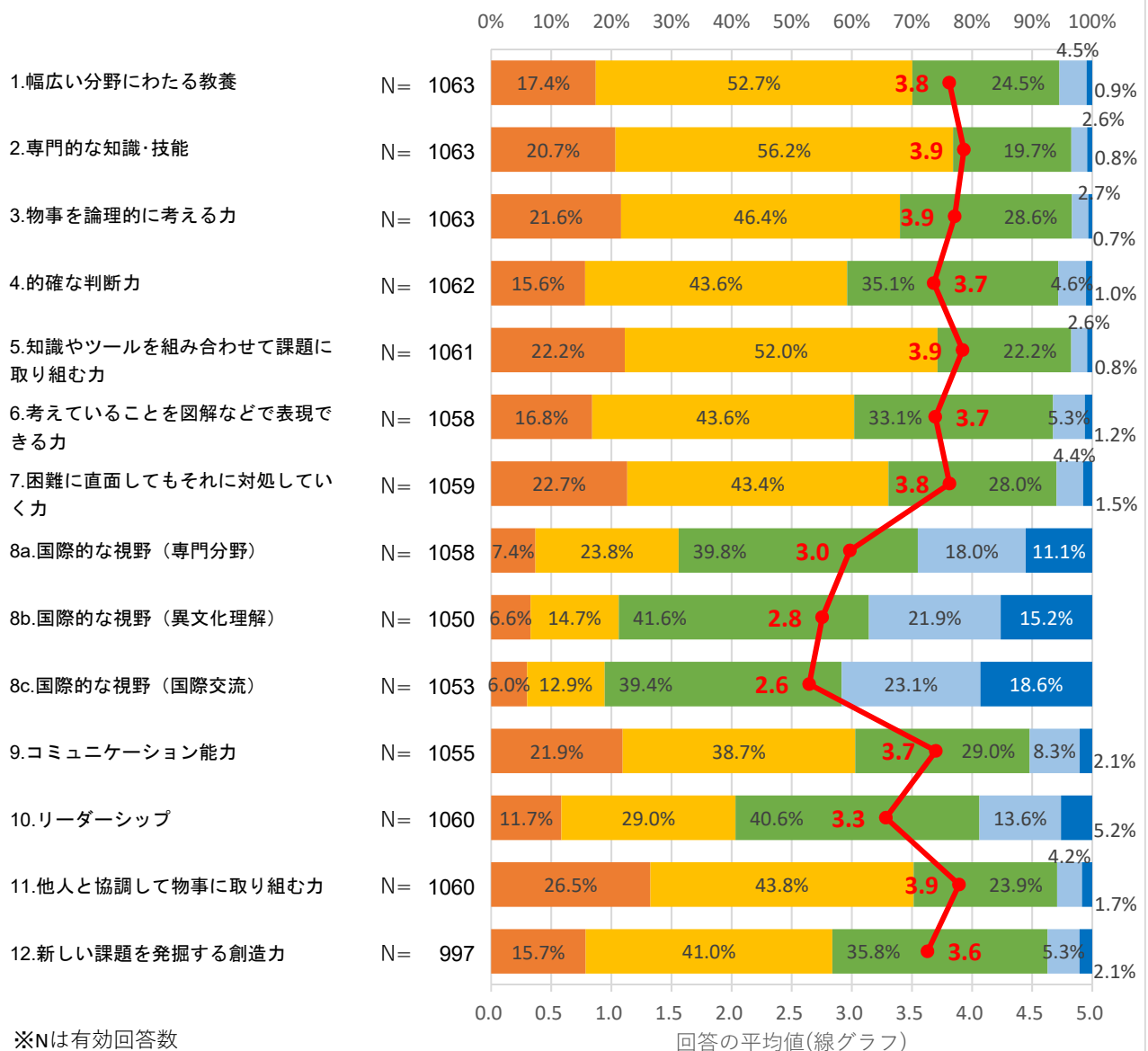
◆あなたが本学で経験した教育について、全体として考えて、総合評価を1～10の10段階で評価してください。



◆本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか？

■5.十分獲得した ■4.ある程度獲得した ■3.どちらとも言えない ■2.あまり獲得していない ■1.獲得していない

選択肢別の割合(棒グラフ)



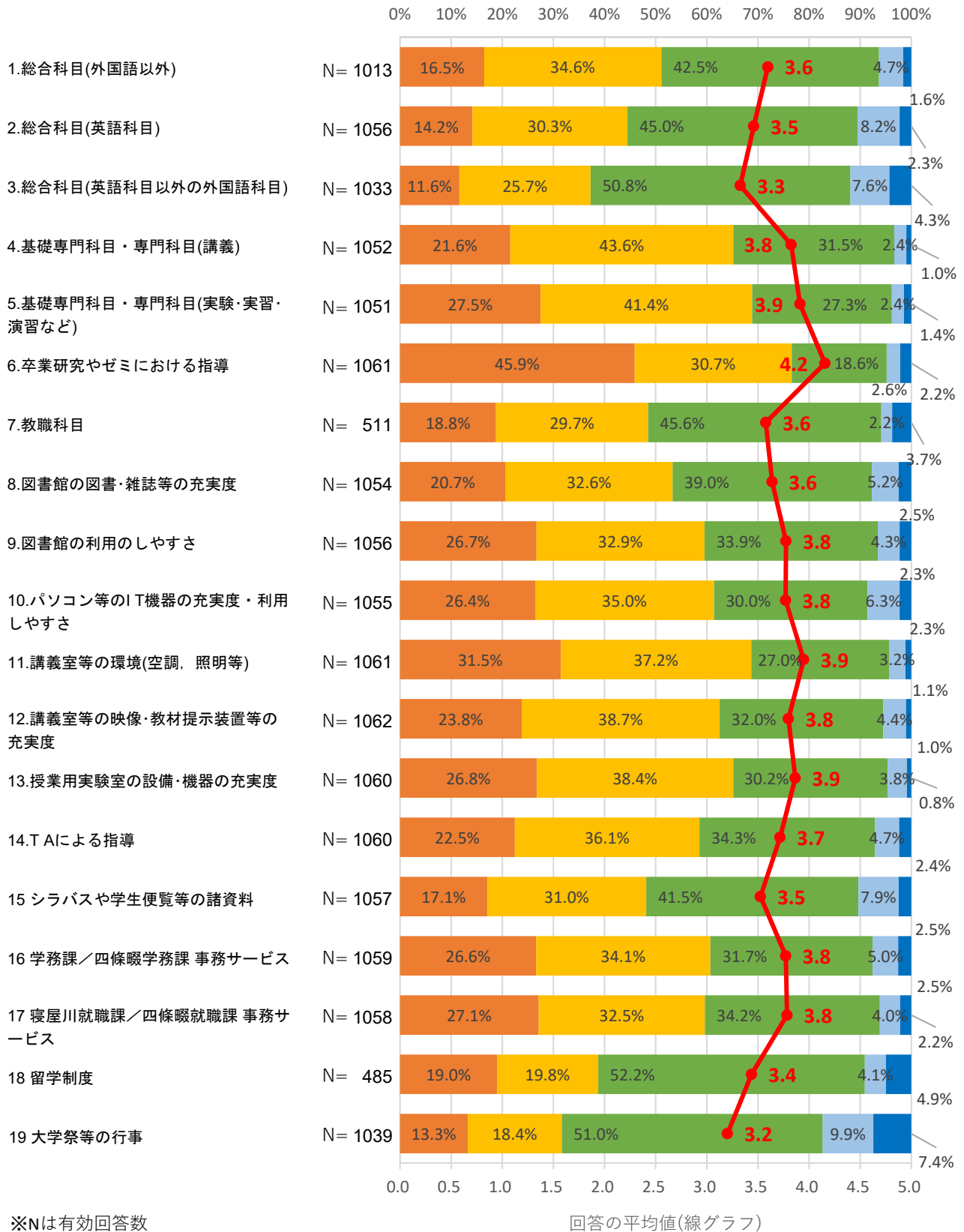
2021年度 卒業生満足度調査

学部全体：集計結果

◆本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて、全体的に評価してください。

■ 5.よかった ■ 4.ややよかった ■ 3.ふつう ■ 2.やや悪かった ■ 1.悪かった

選択肢別の割合(棒グラフ)



学部

2021 年度

「卒業生満足度調査結果の検討」

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年6月8日

工学部 電気電子工学科

2021年度主任 松浦 秀治

設問ごとに回答を整理し、検討した結果を以下に示す。

選択式設問

[A]本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか？

電気電子工学科の教育で修得してもらいたいと考えていた、

「幅広い分野にわたる教養」

「専門的な知識・技能」

「物事を論理的に考える力」

「新しい課題を発掘する創造力」

「他人と協調して物事に取り組む力」

に対して高い評価を得られたので、本学科の教育方針が学生に浸透していることが確認できた。今後も、しっかりと教育していくつもりである。

さらに、

「困難に直面してもそれに対処していく力」

「コミュニケーション能力」

に、高く評価されたことに対して、学生がこのように感じた理由を検討しながら、教育方針に計画的に導入できるようにしていくつもりである。

一方、

「リーダーシップ」

に関して評価が低いが、社会では重要な項目であるため、キャリア教育等を介して、教育できる方法を検討する必要があると感じた。

[B]本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて、全体的に評価してください。

「卒業研究やゼミにおける指導」

に対する評価が高く、少数での教育・研究が大学生活に重要であることがわかり、今後もしっかりと卒業研究を指導する必要があることを実感した。

また、

「基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)」と

「授業用実験室の設備・機器の充実度」

が高評価されているので、学生は実験に関心が高いことがわかり、今後も実験を充実していく必要を感じた。

一方、

「TAによる指導」

の評価が高いことが分かり、教員からは伝えられないことが、年齢差のないTAから伝えられていることがわかった。TAとSAを充実する必要を感じた。

[C]あなたが本学で経験した教育について、全体として考えて、総合評価を1～10の10段階で評価してください。

[A]と[B]の各合計の平均は昨年度と同じであるが、[C]の平均が昨年度より下がっているので、この理由について検討する必要がある。

自由記述設問

満足している点

1. 思考力に関する項目

「学べる分野が幅広く、広い知識を得ることができた。課題解決型の授業が多かったのもよかった。」

「自分で考え、行動し、課題を解決する流れを学び、専門の知識だけでなく、社会での生き方の基準を学ぶことができた。」

大学教育で最も重要である「考える力(思考力)」が身についたとのコメントをしてくれる学生がいたので、我々の教育方針が浸透していることがわかった。

2. 資格取得に関する項目

「資格取得に対するサポートが手厚く利用しやすかった。」

「資格が取り易い」

「電験三種の講義があって良かった。」

「資格支援がしっかりしていた。」

「第1種・第2種電気工事士」

電気電子工学科では、「第三种電気主任技術者試験」、「第一種・第二種電気工事士」と「二級・三級電気機器組立て技能士(シーケンス制御作業)」に関して、教員が担当しているが、学生から評価されていることがわかった。今後も資格取得支援講座を行っていくつもりである。

3. 教育指導に関する項目

「オンライン授業になっても対応がよかった。」

「専門の教員とのわからない所を理解できるまで教えてくれて何げない会話でも話したりすることができるので自分自身を客観的に見る事が出来るのでより経験を得ることが出来た。」

「実験の講義の際に先生やスタッフの方に質問しやすい環境であった点」

「学生のサポートが充実されており、困った生徒に向きあって頂けた。」

「電気・電子の知識を身に付ける事ができた点。実験や研究で分からない点があった時に丁寧に指導して下さった点。」

「先輩先生に適切な指導をいただけた点」

「親切な教員がとても多かった。」

「教員の熱量が高くて良かった。なかなか生徒を想える教員は普通少ないはず。」

「就職についてとても教職員の方々が考えてくれた。」

「TA がいる授業では、先生よりも質問しやすかったので、わからない所を理解しやすかった。」

「分野別に専門の教員が居られたことで深い学びにつながった。」

「質問がしやすかった」

「先輩・先生に質問しやすい環境であった。」

「工学実験の時などの実験の授業で教員の方々が一つ一つわかりやすく説明してくださり、苦手な所もしっかりできた。」

「卒業研究の活動において、自分がはじめてする事や、わからない時の支援がとても助かり、その点が良かった。」

「実験で手厚く指導していただけた点」

「卒業論文製作で困っていた時に、ゼミの先生が丁寧にサポートしてくれたところです。」

教員と TA に質問しやすく、わかりやすいとの意見が多かったので、今後もこの姿勢を続けていく予定である。

そのほか、就活支援に関する評価が高かった。さらに、他学科の学生と協力できる「異分野協働エンジニアリングデザインプロジェクト」に対しても評価が高かった。

満足できなかった点

1. 情報伝達に関する項目

「情報伝達が遅い。特に授業有無や行事等の伝達が遅く、予定がたてられない」

「情報の伝達が遅く、とまどうことがあった。」

「連絡があいまいでどの情報が正しいかわからない時があった」

「連絡が遅い。詳細がわからない」

「Mypage、メール等の連絡がおそく、不足していると感じたことが多かった」

「事務連絡が遅いときがあったのでもう少し早く情報が欲しいと思った。」

「成績や卒業の書類配布のメールをもう少しはやくしてほしい。」

「情報伝達が不十分である。具体的には重要な通達が遅い場合が多い事が挙げられる。」

「ゼミ等の連絡が遅く、手遅れ又は無かったことがあったため、改善すべきだと思った。」

「全体的に情報伝達が遅かったり、こなかったりするののでしっかりとくるようにしていただきたい。」

連絡が遅く、情報内容もわかりにくいと感じている学生が多いことが分かった。旧 A 棟が解体され、掲示板がなくなり、全て MyPortal と OECU メールでの連絡になったのが、うまく伝わらなかったと考えられる。学生が混乱を起こさないように、的確にかつ迅速に情報伝達を行えるように検討する必要があると感じた。

2. 食堂に関する項目

「食堂の値段」

「100 円食堂の再開」

「学食の混雑」

「食堂が J 号館からおかつたので、昼休みの時間が少なくなった。」

昼休みが 50 分しかない状況で、学食に対する不満を感じたことがわかった。学務部・学事部と相談しながら、解決策を検討する予定である。

今回の卒業生満足度調査での意見を参考に、改善策を検討していく予定である。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 9日

工学部 電子機械学科

2021年度主任 新関 雅俊

1. 卒業生満足度調査結果全般について

総合評価点は 7.7 点(10 点満点中)であり、20 年度に引き続き、前年度よりも評価点が高評価であった。コロナ禍の状況が継続している中であり、その影響を強く受けた学年の卒業生からの評価を維持できたことは教職員の努力によるものであると考える。

逆に、20 年度よりも低下した細目は、「卒研究やゼミにおける指導」、「パソコン等の IT 機器の充実度」、「講義室等の環境」、「寝屋川就職課」であった。設備や研究環境の充実については来年度の新棟への移転が予定されていることから環境が一変することも予想されるので、注意が必要であると思われる。就職の状況が厳しいのもコロナ禍の影響があると思われる。

一方、それ以外の細目について昨年度と同等以上の評価を頂いたことは、本学教職員各位の御努力の賜物であり、ここに厚く御礼申し上げたい。引き続き努力を続けて行く。

2. 要望・自由意見について

以下、比較的回答数の多かった要望や自由意見を抽出する。

(1) ネットワークおよび情報系の環境の充実について

2021 年度までに研究室があった P 号館はネットワーク環境がやや弱く、無線 LAN の電波が届かないことが問題であった。状況環境については新棟への移転の際に完全が予想される。また学生はこの数年の遠隔授業などの受講のために情報環境を自分自身で整えていたこともあり、以前ほどの改善の要望は出ないと予想される。

(2) 情報伝達について

本学科ではメールや Slack、Moodle を十分に利用できる環境が整い、学生との連絡が緊密になっている。徐々に面接授業の数が増えていることから直接顔を合わせて質問をし、情報を共有できるようになったことも合わせると今後は充実した環境が実現できると考えられる。

(3) 役に立った授業について

本学科の多くの教員の授業について「役に立った」あるいは「印象に残った」という評価が得られた。これはそれぞれの授業について多くの創意工夫が行われているためと考えられる。

以上

※ 添付資料

1. 資料1 卒業生満足度調査結果検討報告書(案).docx

2021年度 卒業生 満足度 調査結果 検討報告書

[A] 本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか？

2021年度：3.7 2020年度：3.6

1 設計や加工などロボットを一から作る技術 2 大学でしか知ることができないキーワード
3 新しい分野に進む力 4 友人の大切さ

【先生がたからのご意見】

・TN: 1, 2, 3, 5, 6 で平均点が4.0以上となっており、専門課程や卒業研究が有意義な結果となっていると考えられる。

・NZ: 本学科では実際にモノづくりを体験することができるアクティブラーニングを取り入れた授業が多くなってきていることが評価されているように思われる。また、本学科でしか学ぶことができない内容も多いという点を理解している学生もいることも感じられる。学科のよい特徴を今後も伸ばすようにできたらと考える。

[B] 本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて、全体的に評価してください。

2021年度：3.9 2020年度：3.8

1 自由工房では本当に良い経験を出来ました。

【先生がたからのご意見】

・TN: 4, 5, 6 で平均点が4.0以上となっており、専門課程や卒業研究が有意義な結果となっていると考えられる。

・NZ: 自由工房での体験を高く評価する記述が多く見られた。設備・機器も含めて充実した活動が行われていることが推察される。自由工房だけにとどまらず、学科と結びついた課外活動を充実することを考えてゆくべきであると感じた。

[C] あなたが本学で経験した教育について、全体として考えて、総合評価を1～10の10段階で評価してください。

2021年度：7.74 2020年度：7.7

【先生がたからのご意見】

・TN: 総合評価が3と低評価の2名を除けば平均点は7.89点となり、極端に低評価の学生を減らすのも評価を上げる有効な手段だと考えられる。

・NZ: 個々の学生のニーズを見極め、丁寧な指導を継続させることが必要あると思われる。

[D] あなたが本学で良かったと思う点を書いてください。

1 たまにいい先生がいる。 2 クラス制だったために学校に早く慣れることができた。 3 図書館が静かで空いている時間に落ち着けてよかった。 4 色んなことを学べて良かった 5 様々な実験機材に触れられたこと。 6 分野ごとに専門の教員がおり、適切な指導をしたい点。 7 幅広い分野を学べた。 8 趣味の合う友達が出来た。 9 友達と切磋琢磨できた事。 10 コロナウイルス等の災害に対する対応がとても早く、安心できた。 11 わからない問題をヒントをあたえ教えてくれたのが良いと思った。 12 一人一人を見て頂けたと考えている。ゼミなどでも良くして頂けた。 13 たくさんの友人と先輩と後輩に出会い様々な知識を得た。 14 自由工房でロボットを一から作る経験が出来た事、加工センターで難しい

加工をして頂いた事。卒業研究において2週間に一度、先生から指導して頂いた事 15 自由工房での活動 16 光造形加工機が利用できた 17 3DCADがほとんどのPCで利用できた 18 学生へのめんどろみがいい。教員と会話できる時間が確保されてるのがいい。 19 工学に対する知識・技能について具体的にふれる機会が多く、全体的に深く興味を持った。特にソフトウェアとハードウェアの関係について強く興味を持ち、文献や設備を利用し学習できた。 20 すべてわからない時、わかりやすく説明や提案をしてくれた。 21 自由工房に所属しており、部費が無いにも関わらず、様々な設備などを利用し、自由に好きなことが出来た。 22 新しい知識と友達ができた事。 23 分からない所を質問すれば適切な指導をいただけた 24 資格試験を取得できた。 25 専門的な知識を得ることができた。 26 実験等々 27 同じ目標を持つ友人と出会い、目標に向って切磋琢磨し成長できた。 28 分野ごとに専門の教員がおり、適切な指導をいただけた点 29 教授の易しさ 30 CADやsolidworksなど専門ソフトを実際に操作し、製図を行うことができた点。レゴなどを用いてライトレー スロボットを、グループで作成したことなど、個人、集団でのものづくりを体験することができた。 31 文系から理系への進学でしたが、学位を授けられただけでなく就職も決まった事 32 学生の習熟度に合わせて授業をして頂いた点。ゼミでの活動が早く、先輩や同期と関わる機会も多く仲が深まり やすかった点。 33 院生と研究室が同じであるため、意見を聞きやすかった。 34 専門的な知識について深く学ぶことができた。 35 ゼミの教員から適切な指導をいただけた 36 就職でやくにたちそうな、資格をとれたこと、自由工房でロボット製作がいき、同期とも仲がよくなり、切磋琢磨 し、成長することができた。 37 自由に学ぶ機会が多く、授業以外での学びも得られた。 38 専門の教員からその分野の知識を深く教えていただいたり、自由工房というモノづくりの場を作っていただいた ことで、貴重な経験や仲間ができました 39 多分野について学ぶことができ、自分に最も合う分野を学びながら探ることができた点。 40 新しい趣味を見つけ、それに没頭することができた。 2021年度卒業生満足度調査 (H) 電子機械工学科 自由記述 41 造形センター、実験などの充実度。自分の好きな事で研究ができた。 42 コミュニケーション力、自力での勉強(好きなことによつてとことん勉強する姿勢) 43 ゼミでの活動に先生や先輩が協力してくれて活動しやすかった。 44 人とのつながりがある、共に学べたこと。多くの事を学ばせてもらった。 45 卒業研究が自由に選べて自分の好きなことを卒業研究にできること。 46 充実した実験器具、IT機器による実技 47 様々な専門の教員がわからなかったことを丁寧に教授してもらいました。 48 就職課の人に就職についてよく相談にのってもらい非常に助かりました。 49 就職先の分野を広く選択できた点 50 幅広い分野(電気、機械、情報)を学ぶことができ知識を得ることができた。 51 先生に質問しやすく、分かりやすくおしえてもらえる 52 生徒一人一人に手厚いサポートがあった。 53 工業科目を広く学べたことがよかった 54 卒業研究で、まだ誰も研究していないテーマに臨みました。学業において一番苦労しました。しかし、研究室の仲間及び教員のサポートがあったので、乗り越えることができました。 55 研究室がはやかったのでしゅうかつのそうだんなどをできたのでよかった

【先生がたからのご意見】

- ・TN: 研究室、自由工房、造形センターの評価が高いことがうかがえる。
- ・NZ: 4年間の大学生活の中でよい体験をすることができる画面が多く配置されていることがわかる。授業・資格・課外活動・就職のすべての場面で充実した体験をする用意ができています。

[E] あなたが本学で改善すべきと思う点を書いてください。

1 全体的にくらい 2 違う学科でほぼ同じ内容があること。 3 個人的には不足を感じたことは特になかったと思っている 4 グループワークに関するもの全て 5 もっと実習と情報系の授業が欲しい。科目選択できるものが少ない。自由度が低い。 6 専門科目に対する知識が浅すぎる。他大学の大学院の受験は難しい。 7 改善すべきと思う点は講義のときの映像だと思う。見にくいときがある。 8 1・2学年の頃から教授に揉まれた方が良かったと感じた。 9 構内に車両を入れる際に書く書類を1週間前提出ではなく3日前提出とかにしてほしい 10 英語教育 11 OECUメールでの情報伝達は必須と重要でないものに分けてほしい 12 留学制度。りしゅうして授業を受けるが、りしゅうしない間に留学した人がそんなしないように制度を改めてほしい。 13 専門的な授業をもう少し増やしてほしい。特に、研究内容に関した選択科目があれば良いと思う。 14 先生によって教える熱量が違うので、聞いても教えてくれない先生がいる。支持を出すだけの人ですね。 15 オンライン授業の改善 16 wi-fiの強化を実施すべきです。 17 ネットワークの環境を改善すべきだと思う。 18 授業内容が授業を受ける前にわかりづらい。 19 工事の騒音や不便さ 20 オンライン授業、教室での授業など、マイクを用いた授業の際に、教員が使い方を分かっていなかったり、ハウリングが起こったりしている点 21 レポートの提出方法等が統一されていないこと。 22 他大学に比べ、大学祭に魅力を感じられない。 23 急なことでオンライン授業が多くなったことは理解できるが、本来の授業よりも学力は身につけなかったのでものを改善して欲しい 24 学生同士のコミュニケーションが上手いかず、グループ学習での講義がスムーズにできなかったことがあった。 25 情報あつめる力（コミュニケーションなどによって、授業のことや、知らなかったことをもっと知る力）が必要と感じた。 26 実験の知識使わなそう。 27 自分に自信を持つこと。 28 緊急時などの重要な連絡などの対応が遅いことがある。 29 必修科目について電子機械の知識についてをたくさん増やして知識を改善を期待する 30 卒業式の連絡が遅い 31 講義内容のレベルを上げる。 32 部活動がしにくい状態が続いているため、来年度以降部員を増やせるような活動をできるようにしたい。 33 連絡の通知が多いので通知の削減を可能な限りして頂きたいです。

【先生がたからのご意見】

- ・TN: 改善すべき点に関して、学科の専門教育に直結する意見は少ないように思われた。
- ・NZ: 大学での学習には学生の継続的な努力が必要であることが見られる。授業間の連携がもっと取れることが大切であると感じた。また授業内容が社会でどのように役に立つかわかりやすく伝えることの必要性を感じた。

[F] あなたにとってとくに役に立った。あるいは印象に残っている科目名と、どういう教育内容が役に立ち、印象に残ったのか、あるいは後輩への推薦の理由などをご記入下さい。

(3科目まで)

1 外国語 2 システム制ぎょ (正田先生) : 普段生活に役に立つシステムなど知って良かった 3 材料力学 4 微分積分演習 : 何かと使うものであり役立つ機会が多く、また授業としても興味深かった。 5 工作法1・2 (田中宏明) : ロボットの部品や加工について基礎的な知識を得られた 6 設計製図 (田中) : 3DCAD利用可能 7 発達心理学 : 子どもの特性が知れる。 8 家族のくらしと社会 : 様々なコミュニケーションがあることをおそわった。 9 ロボット工学 (入部正継) : 技術面から見たロボットの仕組みがよかった。 10 コンピューター工学 : 学ぶためには不必要な点もあるが、知識を広げられる。 11 プログラミング基礎 (渡

邊俊彦) 12 電子機械実験 13 ロボット工学 (入部正継) 14 卒業研究 15 各実験 16 卒研ゼミ (小川) : 卒業を一生けん命手助けして頂きました。 17 設計製図1・2 18 物理学・実験 19 英語 : 名前を覚えていないが分かりやすい授業だった。 20 3DCAD : 物を作成がおもしろかった。 21 コンピュータ演習 (兼宗) : わかりやすかった。 22 実験系 : 紙でなく理解が深まったから 23 コンピュータ演習 (兼宗) : ドリトルや、C言語を簡単に学べた。 24 メカトロニクス演習 : ライントレースロボットのグループワーク 25 設計製図2 : 3年次よりも難かしいものがあったのしめた。 26 工学基礎製図 (新関先生) : CADに関する知識が増える 27 設計製図1 (田中先生) : 製図の知識が増える。 28 設計製図2 (ジョン先生) : 3DCADの能力が上がる。 29 設計製図2 (鄭聖熹) : 実戦で使える技術力を身につけることができたため 30 プログラミング演習 (兼宗) : プログラムの導入が良かった。 31 力学 (入部) : 力学の全般を理解した。 32 ゼミナール (入部) : 卒業研究のアドバイスを頂いた。 33 卒業研究 (疋田真一) : とても親切でした。 34 ゼミ (兼宗進) : 研究の考え方を学んだ。 35 ロボット工学 (入部先生) : 今後にかならず必要な知識で役立った 36 工作法 (田中先生) : 加工に関する知識を広げることができた 37 CAD基礎 : 3DCADを実践的に学べたこと。 38 異文化の理解 : 異文化圏に興味を持つキッカケになった。 39 異分野協働 (海老原) : チームで協力し、1つの課題を成し遂げられた。 40 電子機械実験2 : 目で見て楽しめた。 41 卒業研究 (疋田) : たくさん協力していただきました 42 工作法 (田中先生) : 工学の知識を多く学ぶことができる 43 設計製図 : 正社員としての仕事を選ぶきっかけとなった。 44 機械運動学 (鄭聖熹) : 授業を受けてとてもわかりやすく楽しく学べました。 45 電気回路1・2 (月間満) : 電気の知識がしっかりと身に付くため。 46 コンピューターリテラシー2 (島袋舞子) : 教員のクセが強かった 47 コンピュータ工学2 (長瀧寛之) : 教員のクセが強かった 48 ロボット工学 (入部正継先生) : ロボットに関する理論について詳しく理解できました。 49 卒業研究 (小川先生)

【先生がたからのご意見】

- ・TN: 「機械」「電気・電子」「計測・制御」そして「情報・コンピュータ」と幅広く学科の専門科目が支持されているように思われる。
- ・NZ: 多くの教員の授業が評価されていて、内容が充実していることがうかがえる。常に時代にあった内容にアップデートしてゆくことも必要であることも感じた。

[G] あなたの現在の感想も含めて、大阪電気通信大学への要望や提案などを自由に記してください。

1 研究室がブラック 2 授業サポートなどがあり、自主的に行動すれば困ることが無かった。 3 自由工房に多くのお金をあげてほしい。 4 教授との距離を、とても近く感じる事ができとても良かった 5 スケジュールをもう少し細かく書いて欲しい 6 よりじっせんな授業がしたかった。電気回路ではブレッドボードで自由にあそぶなど。 7 他大学との交流を増したらどうですか 8 4年間ありがとうございました。 9 実験レポートは手書きからパソコンに変わりませんか。 10 3年次、4年次は、部活動で、文化祭に参加できなかったが、3年次に部活動をできるように、対策を取ってくださったことに感謝します。 11 卒業研究で自分で考えて行って苦労したが良い経験になった。 12 これからも学生たちのよりよい学びの場であって下さいありがとうございました。 13 創作活動を行うサークルに向けて発表の場を増やして欲しい。大学祭以外にも場を設ければ活気づくと思う。 14 色々な分野の

充実度、実技科目の内容など、素晴らしい経験ができ、非常に楽しかったです。15 やりたいことができよかったです。16 学年を越えた関りのある授業などがあればいいと思った。17 サークルに入ればよかった 18 テニスコートやバスケットコートなどを寝屋川キャンパスにも設置するべき 19 一回生・二回生は部活動にとっても力を入れていたため、これからも長く続く部活をOBとして大切にしていきたい 20 サークル活動で同じ趣味の仲間と共に過ごせたので、充実した大学生活になったと思います。2年次からの編入学でしたが、学業面でも、それ以外でも充実できました。

【先生がたからのご意見】

- ・TN: 「研究室がブラック」きっと将来そのことに感謝する時が来ると期待しています。
- ・NZ: 学生の自主的な活動が大学生活の中で充実することが求められているように思われる。教員がすべてを用意するのではなく、自分たちで行動を起こすことができる環境であることをもっと理解させられたらよいと考えた。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 2日

工学部 機械工学科

2021年度主任 阿南 景子

[A] 学生が獲得した知識・能力に関する項目について

学生が獲得した知識・能力に関する項目では、「専門的な知識・技能」「的確な判断力」「物事を論理的に考える力」「知識やツールを組み合わせる課題に取り組む力」などの項目の平均値が比較的高くなっており、「専門的な知識・技能」をある程度獲得したと感じた学生が多いようである。講義・実習・卒業研究を通じて学生の社会人基礎力の獲得を目指す学科教員の取り組みが成果として現れたものと考えられる。一方、「リーダーシップ」「新しい課題を発掘する創造力」については他の項目に比べやや低めの値にとどまっている。2021年度の卒業生はCOVID-19の感染拡大の影響により、学部3年次、4年次のリーダーシップや他者との創造力を身につけるタイミングで、通学、受講、卒業研究等に様々な制限がかけられた影響があるものと考えられる。学科ではリーダーシップを身につけるプロジェクト型教育もカリキュラムに取り入れており、卒業研究等も通じ引き続きリーダー養成にも注力していく必要があると考えられる。

また、「国際的な視野」を「獲得していない」、「あまり獲得していない」の回答をした人の数が他の項目に比べて多くなっている。この傾向は、機械工学科だけでなく、工学部全体でも同様になっている。これは、工学部には留学生が少なく、外国人との交流がほとんどないことが学生の評価に現れていると考えられる。学科単独で解決できる問題ではないが、国際的視野および外国語によるコミュニケーション能力は多くの企業でも求められていることもあり、外国語科目だけではなく専門科目や卒業研究を通じ、外国語に触れる機会を引き続き増やしていきたい。

[B] 授業科目群、教育設備・機器に関する項目について

授業についての評価を見ると、「卒業研究やゼミにおける指導」が昨年度より上昇している。卒業研究の実施においてもCOVID-19感染拡大の影響を受けたものの、各教員が、大学で取り組む内容、自宅等で取り組む内容、等を工夫し、丁寧な指導を行った成果と考えられる。一方、「基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)」が昨年度より0.3ポイント低下している。自由記述欄の記載には、実験設備が充実している、という意見が多くみられるものの、実験科目を多くしてほしい、という意見も散見された。特に、オンライン授業になったために実験が実施できず講義または動画視聴による現象の確認にとどまったものもあり、学生の満足度が低下した一因であると考えられる。自由記述からは、機械工学科の多くの学生が、実験・実習や卒業研究で手を動かすことに興味を持っていることが確認できる。

設備関連では、「パソコン等のIT機器の充実度・利用しやすさ」の項目が低くなっている。遠隔授業等によりIT機器の使用頻度が高くなったことも一要因であると考えられるが、CADソフトウェアを使用する際に不便を感じた学生が多かったようである。機器の更新や性能に余裕を持たせた機器の導入について、依頼したい。また、自由記述欄には、研究室の周囲の声が聞こえるため集中しづらい、といった意見があり、学生が集中して卒業研究に取り組める環境づくりが望まれる。

事務サービスについては、前年度よりやや評価が上昇しており、丁寧な対応をいただいた職員の皆様に

感謝する.

総合評価について

総合評価は 2020 年度に比べ 0.1 ポイント低下している。工学部平均より低いポイントにとどまっているため、引き続き、学科全体で評価結果と自由記述の内容を検討し、教育への取り組みの改善を図り、総合評価の上昇に努めていきたい。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年6月2日

工学部 基礎理工学科

2021年度主任 柳田 達雄

本学科の特徴は、工学の基盤となる科学(数学・物理・化学)の専門知識を獲得させ、それらを活かす理論や技法を修得させる教育を実践していることである。これにより、物事を根本的な基本原理から追究・分析する基礎力と真の応用力を持ち、先端科学技術から教育まで、幅広い舞台で活躍できる理数系ジェネラリストを育成している。

2021年度卒業生満足度調査において、[A] 知識や能力の獲得(5段階評価)、[B] 授業科目や教育設備・器機(5段階評価)、[C] 総合評価(10段階評価)の3項目が数値的に評価された。2020年度、及び2021年度における調査結果の平均を、全学、及び工学部と比較して表1にまとめた。[A] 知識や能力の獲得、及び[B] 授業科目や教育設備・器機の両方が、本学科は全学、及び工学部と比較して低い結果となった。また、2020年度と比較しても2021年度は満足度の平均が下降し、[C] 総合評価においても、本学科は全学、及び工学部と比較して平均が低く、2020年度と比較して2021年度は平均が下降した。

表1. 卒業生満足度調査のまとめ

	2020年度			2021年度		
	全学	工学部	本学科	全学	工学部	本学科
[A] 知識や能力の獲得	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.3
[B] 授業科目や教育設備・器機	3.6	3.5	3.8	3.7	3.7	3.5
[C] 総合評価	7.3	7.4	7.1	7.3	7.2	6.5

調査結果の詳細をさらにみると、[A] 知識や能力の獲得において、幅広い分野にわたる教養と専門的な知識・技能が(3.6)、知識やツールを組み合わせる課題に取り組む力(3.7)、他人と協調して物事に取り組む力(3.8)といった項目の得点が高く、国際的な視野(国際交流)(2.3)といった項目の得点が低かった。この傾向は、工学の基盤となる基礎力をしっかりと身に付けさせた上で、幅広い舞台で活躍できる理数系ジェネラリストを育成するという学科の教育方針と合致しており、工学における特定の専門分野のスペシャリストを育成する他学科と比較して、専門的な知識が得られなかったという評価に繋がっていると考えられる。昨年度は比較的満足度が高かった、[B] 授業科目や教育設備・器機では、基礎専門科目・専門科目(講義)(3.7)と基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)(3.6)が低下しており、少なからずコロナによるリモート授業の影響が現れていると考えられるが、真摯に受け止め改善に務める必要がある。教職科目(3.6)および卒業研究やゼミにおける指導(4.3)が比較的満足度が高く、学科に特徴的な専門教育の質が高く評価されている。このことから、特定の専門分野に偏らず、幅広い工学の基礎力を与えることができていると考えられ、低学年から少人数グループによるプロジェクト学習を積極的に取り組ませることが卒業研究に繋がっていると考えられる。実社会において真に活躍できる理数系ジェネラリストとしてのポテンシャルを身に付けた上で、自信を持って卒業していると読み取れる。一方で、[c] 総合評価において厳しい評価となっており、卒業時における総合的な満足度が得られていないという声をしっかりと受け止め、学科として教育と

研究の質をさらに向上させていく必要があることを確認した。

本学科では、2-4年生を混ぜて受講させる学年横断型の少人数ゼミ(基礎理工学ゼミナール1-5)を5科目(10単位)開講しており、自ら問題を探索し、協同的にその問題を探求し、得られた成果を伝えるスキルを身に付けさせる教育を実践しているが、自由記述において印象に残っている科目に本科目をあげる学生が多く、本学科における特徴的な教育効果が得られていると考えられる。具体的には、「少人数で指導してもらえる」、「分野ごとに専門教員がいる」、「幅広い分野の授業があり、色々な知識を身につけることができる。ゼミナールでは専門的な知識の学習ができた」といった記述がみられ、将来を担う専門家として社会で求められている実践力を身に付けて卒業していることが伺えた。また、「学生に親身な教員が多く、教員と関わる機会が多い」、「丁寧な指導をしていただいた」、「教員と生徒の距離が近く、良い指導を受けられた」など自由記述がみられ、教員の努力により、質の高い教育が達成できていることが示された。一方で、「工事がながく不便であった」「新棟の研究室ごとの学習スペースが解放的すぎる。他学科の学生が多く通るし、話し声もひびくので気が散る」など新しい施設に関する改善意見が見受けられた。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 5月 15日

工学部 環境科学科

2021年度主任 湯口 宜明

1. はじめに

2021年度の卒業生は、2020年度からのコロナ感染拡大の中、以前として遠隔授業への切り替えなどの戸惑いのあった学生もあったが、前年度の経験もあり、大きな混乱はなかったと思われた。それらをふまえ、環境科学科の2021年度卒業生満足度調査結果についてその結果の概要と今後の満足度向上のための対策について報告する。

2. 環境科学科の調査結果の概要

2021年度の環境科学科、工学部全体、大学全体、及び、環境科学科2020、2019、2018年度のそれぞれの獲得数値の合計を表1にまとめた。総合評価は2020年度と比較して0.2ポイント低下したが、大学全体や工学部の平均レベルであった。

表1. 獲得数値の合計のまとめ

	U (2021)	工学部 (2021)	全体 (2021)	U (2020)	U (2019)	U (2018)
[A] 知識・能力の獲得	3.5	3.5	3.5	3.6	3.7	3.4
[B] 授業科目群や教育設備・ 機器など	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.6
[C] 総合評価	7.3	7.2	7.3	7.5	7.9	7.2

[A] 知識・能力の獲得

知識・能力の獲得については2018年度から2019年度に大幅にポイントが改善していた(2019年度報告書参照)。その水準から大きく低下することはなかったが、各項目0.1~0.2ポイント程度の低下がみられた。2019年度に大きく向上したのは、新カリキュラムに向けた授業内容の見直しの効果が出てきたものと考えており、その効果がやや低下しているものと考えられた。

低いポイントが継続している項目として同様国際的な視野(8)が挙げられ、は2.8~3.0ポイントと、他の項目と比較すると相対的に低い。これは以前からの課題として取り上げてきたが、昨年度と同様コロナ禍にあっては国際的な活動も制限されたため、改善が難しかったものと考えられる。これは次年度に継続して改善すべき点として注視していきたい。2020年度と比較して維持していた項目は、考えていることを図解などで表現できる力(6)、困難に直面してもそれに対処してく力(7)であった。

[B] 授業科目群や教育設備・機器など

授業科目群や教育設備・機器などについては、大幅に向上した2019年度の値から0.2ポイント低下した。これまでと同様、授業科目群で高いポイントを示している項目は、卒業研究やゼミにおける指導(6)であ

る。他は低下傾向にあり、これは自由記述欄において遠隔授業に関する記述が多く見受けられ、コロナ禍での遠隔授業が一因ではないかと推測される。

一方で、事務サービスのポイントが上昇あるいは維持しており、コロナ禍での事務方のきめ細かい対応があったからと思われる。学務課事務サービス(16)は変化なし、寝屋川就職事務サービス(17)は 0.2 ポイントの上昇となった。

合計は 3.7ポイントで、前年度から低下した。工学部 3.7、大学全体 3.7 から考えると、この項目についても環境科学科の学生の満足度は平均レベルであったと考えられる。

[C] 総合評価

総合評価は 7.3ポイントであり、2020 度の 7.5 ポイントから低下した。一方で 2018 年度は 7.2 ポイントであったことから、コロナ禍においても、ある程度の高い水準のサービスは提供できたと考えている。これらは工学部の 7.2(2020 年度 7.4)ポイント、大学全体 7.3(2020 年度 7.3)ポイントで、ほぼ平均レベルである。自由記述欄から、卒論・研究室での教育に関する満足度が高いことがうかがえる。特に卒業研究・研究室に対する好意的なコメントが目立っていることから、各教員の丁寧な指導が高いポイントの要因となっていると考えている。

3. さらなる満足度維持・向上のための対策

昨年度から継続して、以下の2点について対策を検討している。

3.1. 現カリキュラム・内容の定着とカリキュラム改訂への準備

2019 年度より新カリの前倒し実施・内容の定着を目指して学科内の改革を実施し、全体的に大幅にポイントが向上した。それにより学科の方向性として問題ないことが示唆された。その後の経過をみると、数値的には低下傾向を示し、現状では大学全体の平均レベルとなった。再び向上させるため、「食品衛生」、「住環境設計」という新たな柱をさらに強化して、カリキュラム改訂への準備を進めていく予定である。食品衛生に関しては、2019 年 5 月に食品衛生管理者および食品衛生監視員の養成施設として認定され、また、住環境設計については管工事施工管理技士の指定学科となるよう申請検討中である。これらの学生の将来が見える・将来に役立つ・卒業時に資格が得られるカリキュラムにより、卒業時の満足度をさらに上昇させる。

また、小中学校、高等学校にて、今後 SDGs が必修となる。SDGs には食環境・住環境に関する内容が盛り込まれており、本学科の新たな柱の定着には大きな追い風となる。新入生への教育はもちろん、在校生についても SDGs に関する知識の定着をはかり今後の持続可能な社会に貢献する人材を育てることにより社会で必要な知識を大学にて学んだ実感を与え、満足度向上につながると考えている。

3.2. プロジェクト等の活性化

当学科では、「ベリーベリープロジェクト」、「カフェラボプロジェクト」、「電池プロジェクト」などのプロジェクト型教育を推進する一方で、「地域連携プロジェクト／ボランティア入門」等の総合科目(キャリア形成群)を通じて、大学祭等と同様なイベントに関わることができるように積極的に勧めている。引き続き、このような活動を活性化させるように努力することで、全体の満足度も向上させることができると考えている。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 6日

工学部 建築学科

2022 年度主任 高畑 顯信

1. 知識・能力の獲得に関するアンケート結果に対する検討

「幅広い分野にわたる教養や専門的な知識・技能など建築の基盤に関わる知識・能力の獲得」は平均評価点数は質問7項目中 4 項目が4.0 であり、7 項目全体でも 3.8~4.0 となっている。また個人別評価点もほとんどが3以上の高評価である。一方で2~5 人程度の 1~2 の低評価者もいることから、全体的に不満足であった学生もいることがうかがえる。

「国際的な視野」の項目では平均評価が 3.0~3.2 と低く、個人別評価でも 17~21 人程度が 1~2 の低評価を与えている。今後の社会環境を考えても国際的な視点の教育が不足していたと評価されていることは、大いなる反省点である。

「コミュニケーション能力やリーダーシップ、グループワークに取り組む力」は平均評価はおおかた 3.8 の高評価となっている。しかし、個人別評価ではリーダーシップの項目に10人が 1~2 の低評価をしている。建築専門能力として必要なものなので、今後底上げをしていきたい。

2. 授業科目、教育設備・機器に関するアンケート結果に対する検討

「総合科目」の評価は平均が 3.4~3.6 とあまり高くない。個人別評価も3が最も多く、1~2の低評価も 5~6人程度居る。共通教育機構と連携して今後取り組むべきだと考える。他方、「専門科目」は高評価である。特に「卒業研究やゼミにおける指導」は平均値 4.3 と質問項目の中で最も高く、個人別評価でも評価5が最も多く、次いで評価 4 である。少人数・個人別のきめ細かい指導が高評価を得たと考えられる。ただし、低評価1が 2 名いることも見過ごしてはならない。原因を掘り起こし、改善に努めたい。

「図書館・IT 機器講義室の環境などの施設や、シラバス・学務課などのサービス」は平均評価 3.7~3.9 と概ね高評価である。しかしここでも個人別評価では 1~2 の低評価者が 3~4 人いる。意見をくみ上げてフィードバックをしたい。「サービス」の中でも就職課は平均評価4.0、個人別評価でも1, 2 の低評価者が 0 人と高評価であった。学科と就職課の連携の成果が出て、進路決定率が 100%となったことを学生も評価しているものと考えられる。

大学祭等の行事が平均評価 3.3 と低評価であったのは、コロナ禍による活動制限が影響したものと考えられる。早く日常を取り戻せることを切望する。

3. 総合評価に対する検討

総合評価は 10 段階で8が最も多く、評価 5~10 までに 8~20 人が評価し、総合評価は 7.4 となった。概ね学科の活動の方向性は評価されているものと考えられる。一方で回答者 77 人中で低評価 2~4 とした学生が 4 人いる。これらの不満の原因を解決することが課題として残された。

4. 自由記述に対する検討

自由記述は設問にもよるが最大で 77 人の回答者中 68 人が記述をしている。教員実名表記や具体的な記述も多く、学校や教員・事務組織に対して概ね好意的で感謝の意を表している。これらの記述を参考に今後の学科運営に活かしていきたい。

5. 満足度調査全体に対する検討

今回 2021 年度調査は、建築学科にとって初めての卒業生の満足度調査である。卒業生 79 人中 77 人の回答を得られていることは、本学科に対してしっかりと意識をもって学修し、社会に出ていったことがうかがえる。この結果をもととして、今後改善を重ね卒業生の満足度を向上させていきたいと考えている。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年5月9日

情報通信工学部 情報工学科

2021年度主任 小森政嗣

1. 総合的評価の結果について

2021年度卒業生満足度の総合的評価（項目[C]）は10段階の主観評価において平均評価値が7.1という結果であった。2017年度以降、卒業生による総合的評価（項目[C]）の得点は6.7、6.9、7.0、7.0と徐々に向上しており、2021年度はさらなる向上が見られたといえる。このことは、コロナ禍で学業が困難になった状況にあっても、教育および学生サービスの向上を本学および本学科が維持することができたことを示している。その傾向を踏まえて、現行の学科教育の課題と改善方針を卒業生満足度調査の結果に基づいて検討した。

2. 知識・能力の獲得について

質問項目[A]群の「本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか」に関する回答は、2017年度・2018年度が平均3.3であったが、2019年度以降は平均3.4となっている。このように、卒業生の本学科での学びに関する評価の傾向はこの数年で大きな変化は認められないものの、比較的高い水準を維持できたと考える。

自由記述の回答でも、本学科の教育に関して肯定的な評価が多く認められる。2021年度の特徴として、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う行動制限が行われた際の、オンライン対応の判断の早さや、SlackやMoodleなどの学習支援とコミュニケーション手段の充実を肯定的に捉えた回答が多かったといえる。また、部分的にオンラインで実施された実験・実習科目についても肯定的な評価も多く、本学科のコロナ対応についてはポジティブに受け止められていたことがわかる。自由記述欄では多岐にわたる科目が肯定的に取り上げられており、多様なニーズに本学科のカリキュラムが対応できていたことを示唆している。さらに、卒業研究に関係する肯定的な記述も目立つ。卒業研究では、指導教員が卒業研究生の研究進捗状況を定期的に報告させつつ適切な助言を与えて議論・検討の機会を設けるほか、学科全体の卒業研究発表会の予稿や口頭発表の準備、卒業論文の執筆に関しても、発表練習・添削指導を何回も綿密に指導を行ってきた。このような指導が有効に機能している結果が肯定的な回答につながっていると考える。

質問項目[A]群の中で、従前よりも低い評価にとどまっていたものは、「国際的な視野（専門分野）」「国際的な視野（異文化理解）」「国際的な視野（国際交流）」である。これらは、新型コロナウイルスが蔓延する状況において、国際的な視野を育成する交流の機会が失われていたことを示唆している。今後の感染状況も考慮しながら、可能な限り国際交流に関する機会を充実させていく必要があるだろう。

3. 授業科目群や教育設備・機器などの評価について

質問項目[B]群の「本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて全体的に評価してください」に関する回答は、小計区分B1～B7、B8～B14、B15～B19について、それぞれの平

均は2020年度の結果{3.5、 3.4、 3.2}と比較すると2021年度は{3.5、 3.4、 3.4}であり、事務サービスへの評価が向上していた。

4. 自由記述欄への回答について

「本学で良かった点」については、友人や仲間ができたことを挙げた学生が非常に多く、学生同士の良好な社会的なつながりを構築することが大学の満足度に寄与することが示唆される。また、研究室の指導教員との関係についても多くの言及があり、コロナ禍にあっても大学生活の中で多様な人間関係を育むことができたことを示している。

「改善すべき点」についてもっとも多くの指摘を受けた項目は昨年度同様、新棟（新A号館）の研究室環境であり、全体の2割以上を占めていた。P学科の研究室の中でまだ半数未満の研究室しか移転していない段階での調査にもかかわらずこれほど多くの指摘を受けたことは、新棟における研究環境の改善が学生満足度の向上における重要な課題であることを示している。特に指摘が多かったのは、他研究室や廊下からの騒音の問題、および他人の視線が気になるという問題であった。P学科は他学科と異なり、廊下に直接面した研究室が多いことが、騒音や視線の問題の指摘につながった可能性がある。今後は、学生の卒業研究活動の環境改善のため大学と連携しながら積極的に取り組んでいく必要があるだろう。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2021年6月9日

情報通信工学部 通信工学科

2020年度主任 村上 恭通

[A]本学で獲得した知識・能力

学科の強み(得意なところ)と弱み(苦手なところ)を知るため、過去3年の結果から3.7以上のもの、および、3.0以下の項目を抽出した。

2021年度の強み:「2 専門的な知識・技能(4.0)」、「5 知識やツールを組み合わせることで課題に取り組む力(3.9)」、「11 他人と協調して物事に取り組む力(3.9)」、「1 幅広い分野にわたる教養(3.8)」、「3 物事を論理的に考える力(3.8)」、「7 困難に直面してもそれに対処していく力(3.8)」、「4 的確な判断力(3.7)」、「6 考えていることを図解などで表現できる力(3.7)」、「9 コミュニケーション能力(3.7)」

2020年度の強み:「2 専門的な知識・技能(4.0)」、「7 困難に直面してもそれに対処していく力(3.9)」、「11 他人と協調して物事に取り組む力(3.9)」、「1 幅広い分野にわたる教養(3.8)」、「3 物事を論理的に考える力(3.8)」、「5 知識やツールを組み合わせることで課題に取り組む力(3.8)」、「6 考えていることを図解などで表現できる力(3.8)」

2019年度の強み:「2 専門的な知識・技能(3.8)」、「11 他人と協調して物事に取り組む力(3.8)」、「5 知識やツールを組み合わせることで課題に取り組む力(3.7)」

2018年度の強み:「11 他人と協調して物事に取り組む力(3.8)」、「2 専門的な知識・技能(3.7)」、「3 物事を論理的に考える力(3.7)」、「7 困難に直面してもそれに対処していく力(3.7)」

2021年度の弱み:「8c 国際的な視野(国際交流)(2.5)」、「8b. 国際的な視野(異文化理解)(2.7)」、「8a. 国際的な視野(専門分野)(2.9)」

2020年度の弱み:「8c 国際的な視野(国際交流)(2.6)」、「8b. 国際的な視野(異文化理解)(2.8)」、「8a. 国際的な視野(専門分野)(3.0)」

2019年度の弱み:「8c 国際的な視野(国際交流)(2.7)」、「8b. 国際的な視野(異文化理解)(2.9)」、「8a. 国際的な視野(専門分野)(3.1)」

2018年度の弱み:「8c 国際的な視野(国際交流)(2.5)」、「8b. 国際的な視野(異文化理解)(2.6)」、「8a. 国際的な視野(専門分野)(2.9)」

以上より、今回も過去と同様に「専門的な知識・技能」・「他人と協調して物事に取り組む力」・「知識やツールを組み合わせることで課題に取り組む力」が特に育まれたことが確認される。また、本年度は3.7以上の項目が9項目(2020年度7項目, 2019年度3項目)と過去最大となっている。特に3.7以上の項目が2020年度から急に増えていることは注目に値する。一方で、「国際的な視野」の全項目については従来同様獲得することができておらず、さらに、すべての項目について昨年度より0.1ポイント下がっていることは残念である。語学が苦手な学生が多い傾向を表しているように感じた。

特に、今回初めて「コミュニケーション能力」が高評価になった点は、今回がタクナル(主体性開発のためのPBL)を導入した最初の卒業生であることも関係があると分析している。また、主体性開発のPBLを導入

入したことで、他の多くの項目の獲得に役立っているということが推測できる。

総括として、まさに学科教育で力を入れている「技術力＝専門知識・技能」・「人間力＝協調力・コミュニケーション」を育むことができていることが確認される結果となった。

[B]本学の授業・設備・機器の評価

学科の強み(得意なところ)と弱み(苦手なところ)を知るため、過去 3 年の結果から 3.7 以上のもの、および、3.3 以下の項目を抽出した。

2021 年度の強み:「6 卒業研究やゼミにおける指導(4.2)」、「11 講義室等の環境(空調, 照明等)(4.1)」、「12 講義室等の映像・教材提示装置等の充実度(4.0)」、「13 授業用実験室の設備・機器の充実度(4.0)」、「5 基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)(3.9)」、「9 図書館の利用のしやすさ(3.9)」、「10 パソコン等の IT 機器の充実度・利用しやすさ(3.9)」、「4 基礎専門科目・専門科目(講義)(3.8)」、「8 図書館の図書・雑誌等の充実度(3.8)」、「14 TA による指導(3.8)」、「16 学務課/四條畷学務課 事務サービス(3.8)」、「17 寝屋川就職課/四條畷就職課 事務サービス(3.8)」

2020 年度の強み:「6 卒業研究やゼミにおける指導(4.3)」、「5 基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)(4.1)」、「11 講義室等の環境(空調, 照明等)(4.0)」、「13 授業用実験室の設備・機器の充実度(4.0)」、「4 基礎専門科目・専門科目(講義)(3.9)」、「10 パソコン等の IT 機器の充実度・利用しやすさ(3.8)」、「12 講義室等の映像・教材提示装置等の充実度(3.8)」、「14 TA による指導(3.8)」、「1 総合科目(外国語以外)(3.7)」、「9 図書館の利用のしやすさ(3.7)」、「17 寝屋川就職課/四條畷就職課 事務サービス(3.7)」

2019 年度の強み:「6 卒業研究やゼミにおける指導(4.1)」、「4 基礎専門科目・専門科目(講義)(3.7)」、「5 基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)(3.7)」、「11 講義室等の環境(空調, 照明等)(3.7)」、「13 授業用実験室の設備・機器の充実度(3.7)」

2018 年度の強み:「6 卒業研究やゼミにおける指導(4.1)」、「10 パソコン等の IT 機器の充実度・利用しやすさ(3.9)」、「5 基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)(3.8)」、「9 図書館の利用のしやすさ(3.8)」、「11 講義室等の環境(空調, 照明等)(3.8)」

2021 年度の弱み:「7 教職科目(3.1)」

2020 年度の弱み:「19 大学祭等の行事(3.0)」、「7 教職科目(3.1)」、「18 留学制度(3.2)」、「3 総合科目(英語科目以外の外国語科目)(3.3)」

2019 年度の弱み:「19 大学祭等の行事(3.2)」、「18 留学制度(3.3)」、「3 総合科目(英語科目以外の外国語科目)(3.3)」、「15 シラバスや学生便覧等の諸資料(3.3)」、「16 学務課/四條畷学務課 事務サービス(3.3)」

2018 年度の弱み:「3 総合科目(英語科目以外の外国語科目)(3.1)」、「19 大学祭等の行事(3.2)」、「18 留学制度(3.2)」

以上より、「卒業研究やゼミにおける指導」と「基礎専門科目・専門科目」(講義・実験・実習・演習すべて)について満足度が高かったことが窺える。これは実学教育に力を入れている成果が表れていると考えられる。このことは[A]の結果からも裏付けられている。また、本年度は 3.7 以上の高い評価の項目が 12 項目に増えていた。例年「教職科目」の評価が低い、ほとんどの学生に無関係なため致し方ないとする。

[C]総合評価について:

総合評価が 2018 年度 6.8、2019 年度 6.9、2020 年度 7.2、2021 年度 7.2 と順調に高くなっていることは、Slack を導入したことにより、近年の学生とのコミュニケーションに力を入れている点、教員間で学生情報を共有し、フィードバックしている取り組みなどが効果を上げていると感じている。

自由記述欄について:

自由記述欄についても、すべて詳細に読み、内容を分析した。ここでは、逐一、コメントすることは避けるが、「よかった点」、「改善すべき点」、「要望」に記載されていることは、上述の結果を裏付けていることが、具体的な内容で記載されていて、大変参考になる。本年度も概ね高評価である印象を受けた。

「よかった点」では、具体的に講義名をあげて評価してくれているものも多く、非常に励みになる。また、「改善すべき点」や「要望」は丁寧かつ具体的に指摘をしてくれているので、非常にありがたい。

毎年「上下の交流の機会が少ない」という意見がある。この点の改善は、離学率の改善にも繋がるので、新入生合宿研修を導入予定である。残念ながらコロナ禍のため2年連続中止になり今後の課題となってしまったが、コロナ禍が落ち着けば導入したい。今年度からオープンな環境の新棟に移転したので、今後は学内でも上下の交流は増えることを期待している。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年5月9日

医療福祉工学部 医療福祉工学科

2021年度主任 藤川 智彦

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け、シラバスについて

教育目標は、カリキュラム・ポリシーの通り、高度化・多様化する医療技術に対応できる人間力と基礎的知識・技術力について教授研究し、医療・福祉機器の開発や医療現場において活躍できる総合医療エンジニアと高度技術に対応できる臨床工学技士を育成するために工学と医学の基礎を十分に学習させることにある。具体的には、医用工学系について ME1 種および ME 2 種実力検定試験、医療機器情報コミュニケーター MDIC、臨床工学技士国家試験に合格させることにある。

2. 教育改善や授業点検、成績評価(平均値、成績分布、合格率など)について

- 1) 専門科目の授業改善プランを提示し、学習環境改善を図った。
- 2) 1,2 年次に対してコロナ禍のため、新たに web 試験を導入し、2021 年度は 7 月、10 月、12 月および 3 月の計 4 回の統一問題による実力試験を実施した。その中で、成績優秀者を表彰して学生のモチベーション向上を図った。基礎工学分野の成績優秀者はのべ 110 名、医用工学分野はのべ 168 名、基礎医学分野はのべ 257 名の 60% 以上得点者を出した。これは、e-learning の学習時間も大きく関連しており、その後の学習過程にも大きく影響するものであると考えている。
- 3) 医科医療事務検定三級はコロナ禍の学習環境となり、合格者は 2 年次 2 名、1 年次 2 名の計 4 名であった。
- 4) 第 2 種 ME 技術実力検定試験はコロナ禍の学習環境となり、1 年次 1 名、2 年次 3 名、3 年次 4 名、4 年次 4 名の計 12 名であった。
- 5) 医療機器情報コミュニケーター MDIC はコロナ禍の学習環境となり、合格者は 3 年次 3 名、4 年次 1 名の計 4 名であった。
- 6) 第 1 種 ME 技術実力検定試験は第 2 種 ME 技術実力検定試験の合格条件があるため、受験者はいなかった。これは前年度の 2020 年度の第 2 種 ME 技術実力検定試験がコロナの影響を受けて中止となったことに起因する。
- 7) 臨床工学技士国家試験に前年度と同じ 23 名が合格した。

3. 学生指導(履修指導や教育相談、生活相談、就職指導など)について

例年、教務委員および臨床実習担当教員、さらに、卒業研究指導教員またはグループ担任を中心とした履修指導につとめ、「履修の取りこぼし」防止をおこない、学生自身が国家試験受験資格に必要な科目の履修状況を確認できるような資料を用いて、学生自らが学修状態を把握し、それを管理できるように務めている。また、本学科独自で展開している学生証を用いた来学確認システムにより、本学の四條畷事務部との密な連携によって、連続 5 日間の欠席学生を抽出し、離学に至るプロセスを解析できるデータを収集している。しかし、今年度はコロナ禍の遠隔授業等もあり、教員との面談の対応もあまり取れず、早期の学生相談等が実現できなかったが、その環境の中でも、遠隔授業等の小テストなどを用いた出席確認を用い

て、学科で出席状況を把握し、離学者が少なくなるように努めている。現在、来学できていない学生の把握もできており、今後はこのシステムも活用していく予定である。また、就職指導においても、卒業研究の指導教員が研究室配属学生の状況を把握し、学生自身がしっかりとした進路を見つけられるように、指導教員が積極的に関与し、学生との密接な関係が構築できるように努めている。

4. 卒業研究指導について

本学科では研究室配属の前に「キャリアデザイン」「プレゼミ」の科目を設け、卒業研究や技術系社会人として必要な基本的スキルを身につけさせている。これによって、視野を広くさせ、学生自身の将来の選択肢を多くさせる工夫をおこなっている。なお、卒業研究配属に必要な研究室訪問も「キャリアデザイン」の授業内でおこない、訪問学生に対して教員または先輩たちが個別に対応するようにしている。卒業研究は4年生前期末の中間報告、後期中期末の概要提出と口頭試験、後期末の論文提出のすべてを満たす必要があり、その内容は生体医工学・福祉工学の各関連分野における調査・実験系の研究となっている。コロナ禍の影響を受けたが、2021年度は学科会議で個々の学生の状況を確認し、学科全体で卒業研究の質の維持に努めた結果、本学科所属教員の研究室における卒業研究の不合格者は1名であった。なお、これからも学科内で情報を共有し、学生のケアを怠らないよう努めていくつもりである。

5. 卒業生満足度調査結果について

1) 総合評価に関する分析

教務委員および実習担当教員、さらに、卒業研究指導教員またはグループ担任を中心とした履修指導をおこなった結果、個々の学生状況を把握しやすい環境を整えたが、2年間のコロナ禍の影響を受け、面接授業の中止や卒業研究の時間の低下も生じ、2021年度の経験した教育の総合評価(10段階)は昨年度の高得点の7.2より、0.2ダウンの7.0になったと推察される。

2) 専門分野と獲得した能力に関する分析

例年通り、臨床工学技士の国家資格取得に向けた適切な授業をおこない、コロナ禍でも同じになるように、尽力したため、専門的な知識・技能の獲得度(5段階)は昨年度の3.9と同じ3.9となる結果となった。国際的な視野(専門分野)に関しては医療従事者である臨床工学技士の国家資格取得の軸があるため、例年3.0程度であるが、コロナ化の影響も受け、昨年度と同じ2.9となった。なお、国際的な視野の養成は現状の教育方針に沿った環境構築を引き続き学科内で検討していく予定である。

3) 授業科目および卒業研究に関する分析

卒業研究指導教員またはグループ担任からの学生状況を会議等で共通認識することにより、個々の担当者だけでなく、学科教員全体でサポートできる体制を構築している。しかし、コロナ禍における遠隔授業、または、面接授業の減少などにより、専門教育の実習および講義の満足度評価(5段階)は昨年度の3.7と3.7から3.9と3.7となり、実習の面接授業の再開による評価向上があった。卒業研究やゼミにおける指導の満足度評価(5段階)は昨年度の4.0から0.2ダウンの3.8となった。コロナ禍の影響もあるが、卒業研究を通じて得る問題解決能力は非常に重要であるため、学科内で卒業研究に対する取り組みをさらに充実させていく予定である。また、総合科目群の満足度評価(5段階)も微減しており、遠隔授業の影響が大きいと推察される。

4) 自由記述に関する分析

自由記述における内容の印象に残っている科目では学科先生の科目が多く記載されており、充実した教育であったことが窺えた。また、わかりやすく、かみくだいて説明してくれた、進路の役に立つ授業だと感じた、講義を心から楽しいと思えたなど、個々の専任教員の授業における良いコメントや高い評価が多くあった。また、卒業研究が非常に勉強になった、質問などをすばやく対応していただいた、設備などが充実している、先生がたのしかったなど、卒業研究を通して、各教員が研究室の学生と信頼関係を構築していることも推察できた。また、分野ごとの教員がいて、優しく丁寧に教えて頂いた、カリキュラムごとに適切な指導をいただいたなどの記述もあり、本学科の目標と一致する記述も多くあった。

5) 教育設備に関する分析

四條畷キャンパス全体の問題と考えられるが、いわゆるアメニティ施設や通学のバスなどの意見が多く、学生の不満を解消させるハードウェアやシステムの整備が必要であると考えられる。

6. その他、特記事項(学科独自の教育、アクティブラーニング、離学者対策など)など

技術者としての必修であるドキュメンテーション能力の基礎を教授するために、1年次で「アカデミック・ライティング」を開講しており、図表の記述、参考文献の提示などの基本的な知識を低学年時から徹底させる試みをおこない、2年次の「電気電子工学実験」により、学生自身で経験した実験の報告書の作成をおこない、さらに、3年次の「キャリアデザイン」の開講により、幅広い分野の知識を得て、4年次の「卒業研究」の中で、プレゼンテーションや卒業論文の作成を可能にするスキルが身につくように、学年の進行に伴い、学生自身でスキルアップができるようにしている。また、3年次の「生体機能代行医用機器学実習」や4年次の「生体機能代行装置学実習」では、学生自身が興味のある部分を中心に事前に調査(グループワーク)し、その結果をプレゼンすることにより、積極性を獲得させるとともに、その結果から学生の知識レベルを外部講師が確認し、実習に役立てている。このような教える側と教わる側の双方にメリットのあるアクティブラーニングを取り入れている。これより、学生自ら興味のある部分に積極的に関わることにより、授業への意欲が飛躍的に向上すると思われる。また、3年次の「ヒト型ロボット創造製作実習」では、板材から部品を金属加工により製作し、学生たちが自ら発案した二足歩行ロボットを製作するなど、実習・演習科目群は学生の自主性を重んじるように心がけている。さらに、学生中心の心電図読図の勉強会を開催し、高学年の学生が低学年の学生に教える指導もおこなっている。これについては、病院において即戦力として機能する能力であると期待される。同時に、先輩・後輩の人間関係を学び、人間形成にも役立っている。また、企業・病院に就職した卒業生が実習補助員として授業に参加し、学生(後輩)に授業内容はもちろん、社会人としての心構えや実体験などを伝え、学生から大変好評を得ている。

7. 添付資料

特になし。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 5月 13日

医療健康科学部理学療法学科

2021年度主任 小柳磨毅

1. 知識や能力の獲得

平均は、4.1点であり、高い評価が多かった。2020年度に3点未満で最も評価が低かった、国際的な視野に関する評価を含め、すべての項目が改善したことは大変喜ばしい。今後も、講義や卒業研究において、国際的な情報収集を行い、さらに海外から講師を招聘するなどの、国際交流にも努めていきたい。

学科全体で取り組んでいる点コミュニケーション能力は、昨年に比べ、0.5ポイント改善した。グループワークを主体としたカリキュラムを充実させた結果、改善したと思われる。

2. 授業科目、教育設備・機器

基礎専門科目、専門科目、卒業研究などの満足度は、いずれも4点を上回り、昨年比でも大幅にポイントが増大した。遠隔講義の影響する中、その状況でも、講義や実習、ゼミ活動が適切に実施されていたと思われる。図書館と設備についても4点代の評価となって、昨年比でポイントが増加し、学生の満足度が高まったことがうかがえる。事務サービスに関しては、4点の評価に上昇しており、充実が伺える。

大学祭等の行事に対する評価も、上昇した。また一昨年度から始めた、「なわてん」への参加も今後さらに充実させたい。

3. 自由記載

専門基礎および専門科目が、国家試験と臨床実習に役立ったとする記述が多く見られた。知識と技術の教育水準をさらに高めていきたい。

一方、学生の不満としては、通学や通信環境の不便に関する記述が見られた。キャンパス全体の問題として、駐車場を含む、通学の利便性と、moodleの活用に不可欠な通信環境の向上に努める必要がある。

以上

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 6日

医療健康科学部 健康スポーツ科学科

2022年度主任 中井 聖

[A]の「本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか？」に対しては、昨年度よりも幾分高い評価を得ることができた。「9 コミュニケーション能力」や「11 他人と協調して物事に取り組む力」といった項目の得点が最も高かった。健康、運動・スポーツといった学科の学びの中心的項目で必要とされる能力が十分涵養されたことが分かる。一方、「8 国際的な視野」に関わる項目の点数が他の項目に対して低く、これらに関わる取り組みが求められる。

[B]の「本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて、全体的に評価してください。」についても、昨年度と同程度の評価を得ることができた。やはり「6 卒業研究やゼミにおける指導」の評価が最も高く、本学科でのこれらの取り組みが学生にとって満足のいくものであったことが窺い知れる。

[C]の「あなたが本学で経験した教育について、全体として考えて、総合評価を1～10の10段階で評価してください。」についても、昨年度を上回る評価を得ることができたが、ひとえに学科教員の協働、協力の賜物だと思う。

自由記述については、例年と比べて、ネガティブな意見が減り、[D]の「あなたが本学で良かったと思う点を書いてください。」に先述の評価を表すような項目が多く見られた。一方、[E]の「あなたが本学で改善すべきと思う点を書いてください。」においては、コロナ禍での遠隔授業に対する意見が見られたり、キャンパスの立地や交通利便といった改善が難しい項目についての指摘があった。[G]の「あなたの現在の感想も含めて、大阪電気通信大学への要望や提案などを自由に記してください。」に見られた「17 女子生徒を増やせるようにしてほしい。」は、本学科の喫緊の課題であり、入試部、広報部と連携しながら、女子に対する学科の取り組みの魅力を伝えるよう改善を図りたい。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 2日

総合情報学部 デジタルゲーム学科

2021年度主任 門林 理恵子

2021年度卒業生満足度調査における、教育の全体を考慮した総合評価(質問項目[C])は10段階評価で平均7.4と昨年度より0.2ポイント上昇した。質問項目[A]群(知識・能力の獲得に関する質問)、質問項目[B]群(授業科目群や教育設備・機器などに関する質問)ともに0.1ポイントずつ上昇しており、コロナ禍にあっても学びの質を高められたと考えられる。

質問項目[A]群の「本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか」に関する回答は、3.6ポイントと昨年度より0.1ポイント高くなっている。特に、「専門的な知識・技能」「物事を論理的に考える力」はそれぞれ4.0ポイント、「知識やツールを組み合わせる課題に取り組む力」「他人と協調して物事に取り組む力」はそれぞれ4.1ポイントと高い評価を得た。コロナ禍で授業の実施形態に大きな制約があり、学生自身も学びの工夫をしたこと(せざるをえなかったこと)も評価が上がった要因ではないかと思われる。一方、「国際的な視野」に関しては、小項目の「国際的な視野(専門分野)」は昨年度より0.2ポイント上昇して3.0となったが、「国際的な視野(異文化理解)」は2.7で昨年度と同じ、「国際的な視野(国際交流)」は2.6と0.1ポイント下がる結果となった。従来より異文化理解や国際交流の機会を設けているが、コロナ禍により実施できなかったことも影響していると考えられる。オンラインでの効果的な実施方法などを検討したい。

質問項目[B]群の「本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて全体的に評価してください」に関する回答は、3.7ポイントと昨年度より0.1ポイント高くなっている。なかでも「卒業研究やゼミにおける指導」は4.2と昨年度よりの3.9より0.3ポイント高くなった。コロナ禍で研究室への入室も制限され、オンラインでのゼミが中心になった期間もあったが、教員間でオンラインツールの情報やゼミ実施方法のノウハウの共有がすすみ、対面とオンラインのハイブリッドの環境での指導が、よりスムーズにできるようになったためではないかと考えられる。一方で「留学制度」については、昨年度より0.3ポイント下がって3.1となった。コロナ禍のため実施できなかったことが影響した。

今回高評価を得た項目はそれが維持できるように、また、評価が低い「国際的な視野」に関してはコロナ禍などの外的要因の影響を受けにくくする方法を検討し、今後も学びの質・環境を高い水準で維持できるよう努めたい。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 9日

総合情報学部 ゲーム&メディア学科

2021年度主任 横山 宏

本調査結果は、本学科1期生によるもので、2018年度に開設した学科の完成年度にあたり、4年間の教育成果の総括としての貴重なデータと受け止めている。その中で、本学科で経験した教育についての総合評価(質問項目[C])は、10段階評価で7.6であり、これは、所属する総合情報学部の他2学科よりもわずか0.2ポイントであるが上回っている。また、四條畷キャンパスの6学科平均7.5、寝屋川キャンパスの9学科平均7.2、大学全体の平均7.3よりも上回っている。これは、コロナ禍にあっても、本学科の教育が所属学生の満足度充足に少しでも貢献できたものと考えられ、今後の励みにしたい。

- 1)質問項目[A]「本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか？」の回答(5段階)では、12項目の平均が3.7であった。平均よりも高いものは、他人と協調して物事に取り組む力4.3、専門的な知識・技能4.1、知識やツールを組み合わせる力4.1、コミュニケーション能力4.1、困難に直面してもそれに対処していく力4.0であった。平均よりも低いものは、国際的な視野に関するもので、国際交流2.7、異文化理解2.8、専門分野3.1であった。これらのことから、国際交流におけるコミュニケーション能力の育成について、教育改善の課題があるものと受け止める。
- 2)質問項目[B]「本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて、全体的に評価してください。」の回答(5段階)では、19項目の平均が3.7であった。平均より高いものは、卒業研究やゼミにおける指導4.4、基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)4.0があり、他に教室や設備に関するものがあった(講義室等の環境(空調, 照明等)4.1、パソコン等のIT機器の充実度・利用しやすさ4.0、講義室等の映像・教材提示装置等の充実度4.0、授業用実験室の設備・機器の充実度4.0)。これらのことから、教育環境の充実を前提としつつも、3年生後期からのゼミ指導において、本学科の教育目標の完遂に教員一同の一層の努力に努めたい。
- 3)自由記述[D]「あなたが本学で良かったと思う点を書いてください。」での76件の回答を分類すると、カリキュラム・教育方針・教育システムに関するものが41件(53.9%)、教員に関するものが17件(22.4%)、施設・設備に関するものが9件(11.8%)、友人に関するものが7件(9.2%)、TAに関するものが2件(2.6%)であった。カリキュラム・教育方針・教育システムに関するものと教員に関するもので58件(76.3%)となり、本学科のカリキュラムとそれらを実現させるべく邁進した教員の努力が、学生の学びに役立ったものと受け止めたい。
- 4)自由記述[E]「あなたが本学で改善すべきと思う点を書いてください。」での68件の回答を分類すると、カリキュラム・教育方針に関するものが26件(38.2%)、教育環境に関するものが20件(29.4%)、通学バスに関するものが12件(17.6%)、施設・設備に関するものが5件(7.4%)、教員に関するものが2件

(2.9%)などであった。カリキュラム・教育方針に関するものでは、本学科のユニット制に関する指摘があり、今後の改善課題として受け止めていく。

5)自由記述[G]「あなたの現在の感想も含めて、大阪電気通信大学への要望や提案などを自由に記してください。」での36件の回答を分類すると、教育環境に関するものが12件(33.3%)、教育システムに関するものが10件(27.8%)、カリキュラム・教育方針に関するものが2件(5.6%)などであった。大学としての教育システムのさらなる改善に努めていかなければならないと真摯に受け止める。

以上

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 9日
総合情報学部 情報学科
2021年度主任 大西 克彦

[A]本学での大学生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか？

全体としては、昨年度と同じ平均値の評価であった。項目ごとに昨年度との差が少しずつみられる。その中でも「9 コミュニケーション能力」については0.2ポイント点数が上がっている。本卒業生は3年生からコロナ禍の生活になり、遠隔会議システムなど新たなコミュニケーション手段を利用してきた自信がももたためとも考えられる。

一方、「11 他人と協調して物事に取り組む力」は0.2ポイント点数が下がっている。こちらは遠隔講義が多くなり、どうしても同じ場所での共同作業の機会が少なくなったため下がった可能性がある。また「8 国際的な視野」の3項目については、他の評価項目に比べて平均点が低く、全体の平均値を下げている一要因になっている。本項目が低い原因は、社会的な行動の制約も要因の一つと思われるが、今後改善を検討して必要がある。

[B]本学での生活を振り返り、以下の授業科目群や教育設備・機器などについて、全体的に評価してください。

全体として、昨年度よりわずかながら評価の平均値は上昇している。項目ごとの平均値を昨年度と比較すると、ほぼ全ての項目で同等か上昇している。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策の2年目であり講義実施形態含め、ある程度対策が行き届いたことが影響していると思われる。

卒業研究やゼミにおける指導については、平均値が下がっている。今年度の卒業生はちょうどコロナ禍による遠隔講義の開始など生活様式の変更が始まった頃に卒業研究を履修しており、研究室の指導もまだ慣れない遠隔中心になってしまったことによる影響があったものと考えられる。

設備についてはTAによる指導が高評価となっており、自由記述にも数軒意見がある通り演習授業におけるTAのきめ細かい対応が良かったものと思われる。

また学務課／四條畷学務課 事務サービスについても昨年度より高評価となっており、コロナ禍での事務連絡や質問対応など丁寧な対応をして頂いた結果と考えられる。

[C]あなたが本学で経験した教育について、全体として考えて、総合評価を1～10の10段階で評価してください。

総合評価については、[A]や[B]の評価平均値を10点換算した点数とそれほど差はないので妥当と思われる。

[自由記述]

TAについての良い意見が多く見られた。3年次の卒業研究実施についても良い評価が見られる。

役に立った科目やその教育内容については全教員の担当する科目が挙げられており、コロナ禍による影

響など環境が大きく変化中での教員の努力の成果と思われる。

キャンパスの立地や、交通手段、食堂についてはコロナ禍による影響で遠隔講義が多かった卒業生にも関わらず、改善を求める意見が多く見られた。

遠隔講義については、やはり肯定的な意見、否定的な意見の両方があったが、今後も遠隔講義の実施も想定されるため、授業内容の改善のための参考になると思われる。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年6月9日

共通教育機構 人間科学教育研究センター

2021年度主任 平沼 博将

1. 総合科目の満足度(評価)について

2021年度の卒業生満足度調査の結果をみると、人間科学教育研究センターが主に担当している「総合科目(外国語以外)」の満足度は、寝屋川キャンパス、四條畷キャンパスともに平均3.6(前年度比+0.1)であった。また、「総合科目(英語科目以外の外国語科目)」の満足度も、寝屋川キャンパスで平均3.3(前年度比±0)、四條畷キャンパスで平均3.4(前年度比+0.1)と、わずかではあるが全体的に満足度が上昇した。この卒業生満足度調査とは別に授業期間内に実施している授業アンケートにおいても総合科目の評価は高まってきていることから、引き続き、人間科学教育研究センターとして授業改善に務めていきたい。

2. 総合科目に関連する自由記述について

次に、卒業生満足度調査の自由記述から、総合科目に関連する記述を抜粋した上で改善策を検討する。

総合科目全般については、「もう少し、総合科目の種類を増やしてもよいと思う」との意見があった。この点については、次のカリキュラム改訂に向けて参考にしたい。また、「総合科目は基本ダメ。シラバスに則らない」との厳しい意見もあった。科目名や詳しい内容が記載されていなかったことから具体的な改善策を提示することはできないか、引き続き、受講生への丁寧な説明を心掛けたい。

それぞれの科目に関する記述としては、下記に示したように、さまざまな分野に興味をもつ機会になったことや、幅広い知識・スキルが身についたことなど、ポジティブな意見や感想が多かった。

(1)総合科目(講義・演習系科目)について

- ・『文学の世界』…「文学的な理解力が身につく」
- ・『日本語上達法』…「文章力が上達するから」「話す、書くといった基礎を学ぶことができる」
- ・『社会生活と法』…「私たちの社会には規範があり、それらを守ることを意味を学び憲法についてもっと学びたくなりました。」
- ・『発達心理学』…「子どもの特性が知れる」「子どもがどのように成長するのかがわかった」
- ・『家族のくらしと社会』…「様々なコミュニケーションがあることをおそわった」
- ・『異文化の理解』…「異文化圏に興味を持つキッカケになった」
- ・『国際コミュニケーション』…「日本でただ住んでいるだけでは目をやれない部分を学べる」
- ・『健康スポーツ科学論』…「自分の精神面の課題に気づけた」
- ・『総合ゼミナール』…「暴力とは何かを考えさせられた」
- ・『キャリア概論』…「授業のお話がおもしろくて役立つことばかりでした」

(2)総合科目(英語以外の外国語科目)

外国語科目(英語以外)についても、各科目(中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語)ともに下記のように高く評価する意見が多く寄せられた。

- ・『中国語』…「中国語について幅広く教わった」「違う言語を学べたから新鮮だった」「わかりやすく、かなり役に立つ授業だった」「簡単な言葉だけだったがコミュニケーションを取れた」
- ・『韓国語』…「全く触れたことのない言語だったので、新鮮だった」「分かりやすかった」
- ・『フランス語』…「学力の向上が分かりやすかった」
- ・『ドイツ語』…「英語以外の外国語を学ぶのが初めてだから」「ドイツ語にふれるきっかけがありためになった」「楽しく授業を受けられる場だった。」

(3)総合科目(スポーツ実習)

『スポーツ実習』については、下記のような意見・感想が寄せられた。特に2021年度はコロナ禍で外出する機会や運動の機会が減る中、学生たちにとっては体を動かす貴重な機会になっていたことが伺える。

- ・「スポーツ実習は体を動かすことがメインの授業ではあるが授業であるが故に運動不足解消には大いに役立った」
- ・「大学では体育の授業がないので体を動かす機会となった」
- ・「コロナ禍で外出が減少し、運動する事がなかったが良い運動となった」
- ・「体を動かす機会が得られたのは助かった」
- ・「体動かせて楽しい」
- ・「好きなスポーツで身体を動かすことができる」

3. 人間科学教育研究センターの取り組み

人間科学教育研究センターでは、学生が幅広い教養と社会人としての基礎的な能力を身につけられるように数多くの総合科目(教養科目)を開講するとともに、日本語活用能力の向上を目指す「日本語上達法」や、現代社会の問題に各教員の研究分野からアプローチする「現代社会を考える」などの授業にも力を注いだ。更に2020年度からスタートした新カリキュラムでは、これまでの取り組みや内容を発展させるとともに、総合科目を更に魅力あるものにするために「総合教養」「アジアの言語と文化」「ヨーロッパの言語と文化」「平和学」などの多くの新設科目を開講している。また、授業以外の学習支援として、Moodle(学習支援システム)を活用した個別のレポートライティング指導「レポートマスターへの道」も行っており、今後もこうした取り組みを通して、学生の満足度を高める努力を続けていきたい。

以上

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 9日

共通教育機構／英語教育研究センター

2021年度主任 上垣 公明

(1)総合科目(英語科目)評価点について

2021年度の英語科目の全学評価点は3.5ポイントであった。最近の3年間は同じ値で推移している。年々英語力の低い学生の割合が増加していることを考慮すると、このような推移は、英語教育研究センターの教員および非常勤講師による英語教育の取り組みの成果の表れと考えて良いであろう。

2021年度の卒業生は、2015年度のカリキュラムで学習した学生である。2020年度カリキュラムが今年度で3年目を迎えているが、このカリキュラムは、4技能のバランスの取れた習得や、系統立てた科目の配置など、前のカリキュラムに大幅な変更を加えたものである。来年度がこのカリキュラムの完成年度となり、それに基づいて学習した学生からの評価が待たれるところである。

(2)自由記述について

英語の授業に関するアンケートの回答で特に多かったのは、外国人特任講師によるコミュニケーションの授業に関するもので、合計7件あった。具体的には「受けていてとても楽しい」「板書等に工夫を感じた」「楽しそうに授業をするのでナイス」「おもしろい」「コミュニケーションを主体とした授業が良かった」等の回答があった。いずれも好意的なものであり、特に、英語を楽しく学ばせようとする工夫が評価されているのが特徴的である。また、四條畷の専任教員のコミュニケーションの授業について「とにかく英語が楽しいことを教えてもらえる」という回答もあり、楽しく英語を学ぶことへの工夫を評価している点は、前述の外国人特任講師への回答と共通している。

具体的な科目名の記載はなかったが「名前覚えていないが、分かりやすい授業だった」「喋り方がハキハキしており、とても聞き取りやすかった。また、とても分かりやすかった」という回答もあり、「分かりやすさ」への工夫が評価されている。本学には、英語に苦手意識を持っている学生が多くいることを考えると、このような「楽しさ」と「分かりやすさ」については、今後の英語教育の在り方を考えていくうえでの手掛かりになると思われる。今後、センター内でそのような認識を共有し、より良い授業を提供できるよう努めていきたい。

学生自身の習得度に関係するものとしては、「英語が話せるようになった」「英語力がついた」という回答もあり、このような学生がいることは、授業を行ううえで大きな励みになると同時に、学習者自身の達成感が英語学習における動機付けになることを再認識する必要があると思われる。

(3)まとめ

英語教育研究センターとしては、今回のアンケートの結果に基づいて2020年度のカリキュラムを検証すると同時に、2024年度開始のカリキュラムについて検討していきたい。同センターの基本的な方針として、入学時のプレイスメントテストによる習熟度別クラス編成の徹底、コーディネーター制の充実を図っていきたい。加えて、FDの実施によって、専任教員および非常勤講師の共通理解のもと、全ての授業の質的担保に努めるとともに、授業外での個別の学習支援や、多読学習支援などを通じて、本学の英語教育の発展に貢献していきたい。

2021年度卒業生満足度調査結果検討報告書

2022年 6月 9日
 数理科学教育研究(AS)センター
 2021年度主任 溝井 浩

1. 設問[A]について

ASセンターが主に関係する項目は1～4であると思われる。基礎専門科目として、数学と物理学の講義・演習と実験では重点を置いて教育している項目である。大学全体では「1 幅広い分野にわたる教養」(2020年度 3.8)が2021年度も 3.8、「2 専門的な知識・技能」(2020年度 3.9)が2021年度も 3.9と高水準を維持している。「3 物事を論理的に考える力」(2020年度 3.8)が2021年度は 3.9、「4 的確な判断力」(2020年度 3.6)が2021年度は 3.7と+0.1の向上がみられた。これらの数値はASセンターが特に力を入れている数学・物理科目の基礎学力向上の取り組みの成果が表れているものと考えられる。

表1に学部ごとの伸びをまとめた。工学部は昨年度と同様の水準を維持していた。情報通信工学部、医療福祉工学部、総合情報学は0.1～0.2ポイント上昇した項目がみられる。これまでの我々の取り組みが実を結びつつあることを伺わせる。

表1
 学部ごとのポイントの伸び【2021年度(2020年度)Δ変化】

	工学部	情報通信工学部	医療福祉工学部	総合情報学部
1 幅広い分野にわたる教養	3.8(3.8)Δ0	3.7(3.6)Δ+0.1	3.9(3.8)Δ0	3.9(3.8)Δ+0.1
2 専門的な知識・技術	3.9(3.9)Δ0	3.9(3.9)Δ0	4.0(3.9)Δ+0.1	4.0(3.8)Δ+0.2
3 物事を論理的に考える力	3.8(3.8)Δ0	3.8(3.7)Δ+0.1	3.9(3.8)Δ+0.1	3.9(3.9)Δ0
4 的確な判断力	3.7(3.7)Δ0	3.5(3.5)Δ0	3.8(3.6)Δ+0.2	3.7(3.7)Δ0

2. 設問[B]について

ASセンターが関係する項目は4と5であり、大学全体では「4 基礎専門科目・専門科目(講義)」3.8、「5 基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)」3.9と昨年度と同水準を維持している。[B]の平均が3.7であることから、相対的に良い評価を得ていると言える。表2に学部ごとの伸びをまとめた。工学部では増減は見られなかったが、情報通信工学部では微減、医療福祉工学部と総合情報学部ではポイントの伸びがみられる。

表2
 学部ごとのポイントの伸び【2020年度(2019年度)Δ変化】

	工学部	情報通信工学部	医療福祉工学部	総合情報学部
4 基礎専門科目・専門科目(講義)	3.8(3.8)Δ0	3.7(3.8)Δ-0.1	3.8(3.8)Δ0	3.9(3.8)Δ+0.1
5 基礎専門科目・専門科目(実験・実習・演習など)	3.9(3.9)Δ0	3.9(3.9)Δ0	3.9(3.7)Δ+0.2	4.0(3.9)Δ+0.1

3. 自由記述について

AS センターに直接的に関係する内容は限られているが、授業に関する具体的な意見が出されており、授業改善への指針として貴重なものであるといえる。今後のカリキュラムマネジメントと各科目の講義へフィードバックをかけるために慎重な分析を進めたい。

(1) 数学系科目に関する意見として、「数学的知識」、「線形代数：講義の説明がわかりやすかった、いろいろな科目で役立った」、「確率・統計：先生が学生をしっかり見てくれる」、「微分積分：勉強以外でも社会で役立つことを学んだ」といった専門の学びへつながる学習ができていることを評価する意見が見られた。一方で、2019年度までは散見された「難しすぎる」「易しすぎる」といった、習熟度別クラス編成への不満を表すような記述が、2020年度に引き続き今年度の調査でもほとんど見られなかったことは特筆に値する。

(2) 物理科目に関する意見として、物理学実験を評価する意見が例年通り見られたが、一方で講義科目についての意見が全く見られなかった。例年は講義科目についても、好評・不評両面の意見が多く寄せられているので、今年度に特に意見が無かったことについて検討課題としたい。関連するものとして特筆すべき意見を取り上げると、例年通りに TA や SA に質問や相談できたことを高く評価する意見が多くみられた。演習付き講義科目で、TA や SA を付けていることが受講生に評価されているものと思われる。

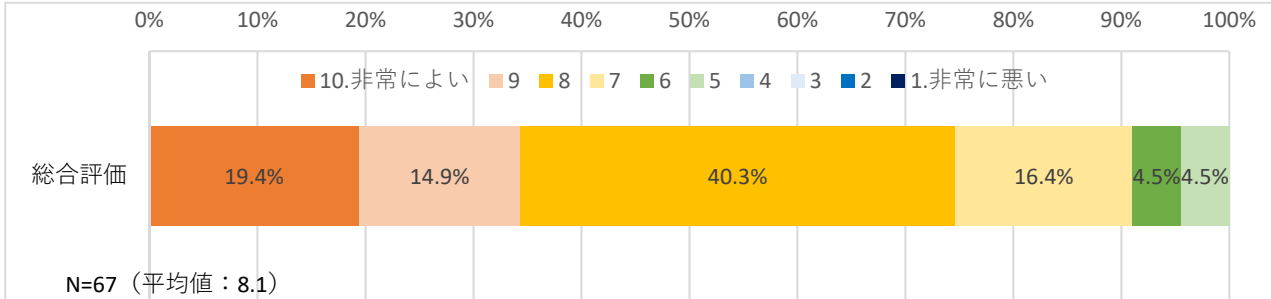
4. まとめ

AS センターの専任教員・非常勤教員は、1～2 年次生の授業を数多く担当しており、今までに培ってきた授業の工夫やノウハウは蓄積され、これを共有してきている。共通教育機構では、さらに授業のねらいや目的を明確にし、学生へのオリエンテーションの充実を図りながら、習熟度別クラスの編成、専門科目との連携を強化して、全学的な基礎教育の充実を目指している。また多く非常勤講師を含めて数学・物理の科目毎にそれぞれ責任者(まとめ役)の専任教員を配置しており、時折発生する学生からの注文や意見に対しても迅速に対処できる体制を整えている。AS センターでは、入学時のプレイスメントテストを実施して、習熟度別クラスによる授業運営を推し進めてきた。複数学科を合わせてクラス分けすることは、単に習熟度別授業を実現するためだけではない効果もある。「他学科との交流が欲しい」といった声も幾つもあり、学科単独のクラスと、複数学科によるクラスとでは授業中の雰囲気も異なるようである。今後も、共通教育機構としての役割を果たせるよう、習熟度別クラス間の調整、基礎専門科目と専門科目の連携を深めていきたい。

2021年度 修了生満足度調査

大学院全体：集計結果

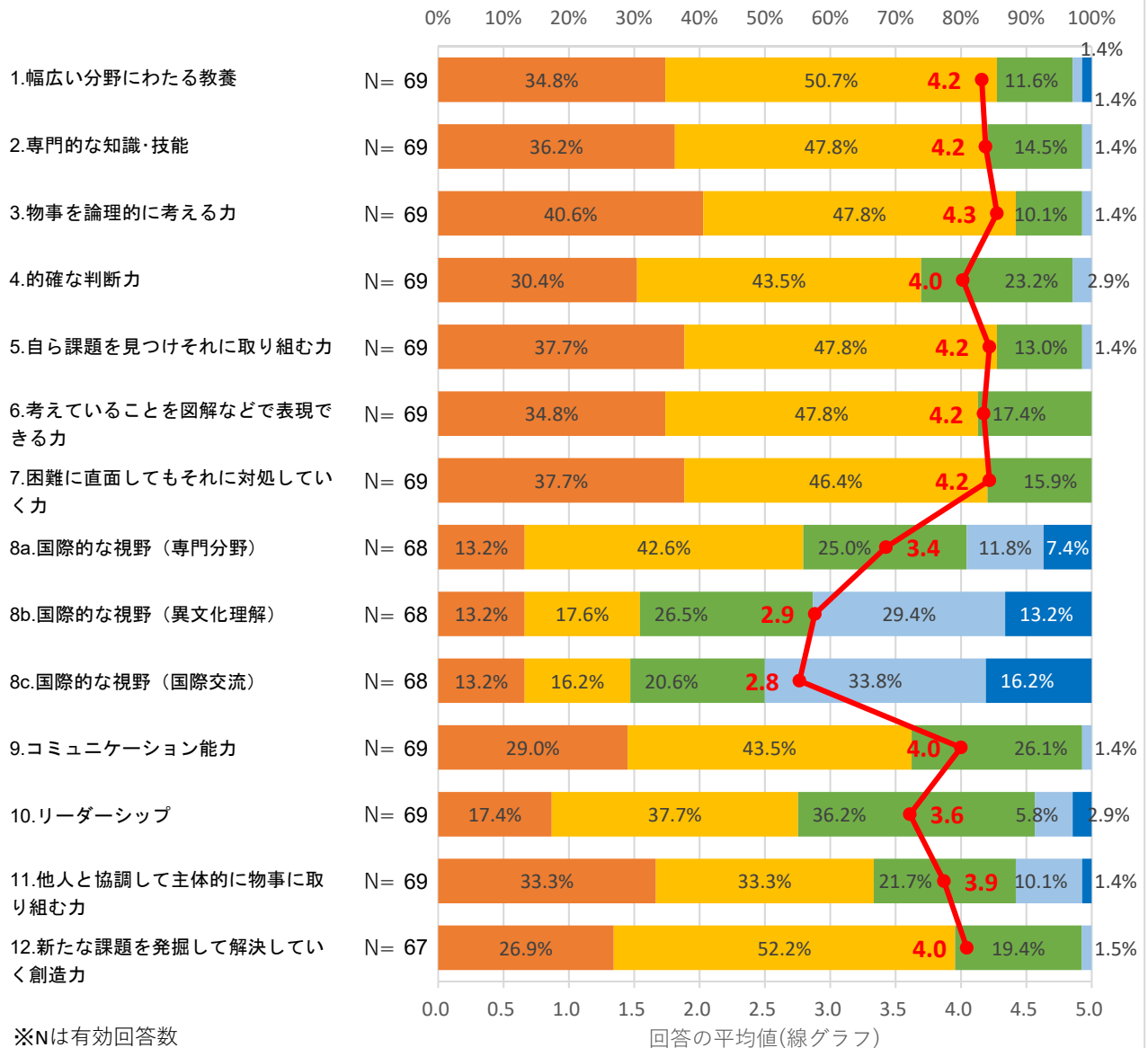
◆あなたが本学の大学院で経験した教育について全体として考えて、総合評価を1～10の10段階で評価してください。



◆本学での大学院生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか？

■ 5.十分獲得した ■ 4.ある程度獲得した ■ 3.どちらとも言えない ■ 2.あまり獲得していない ■ 1.獲得していない

選択肢別の割合(棒グラフ)



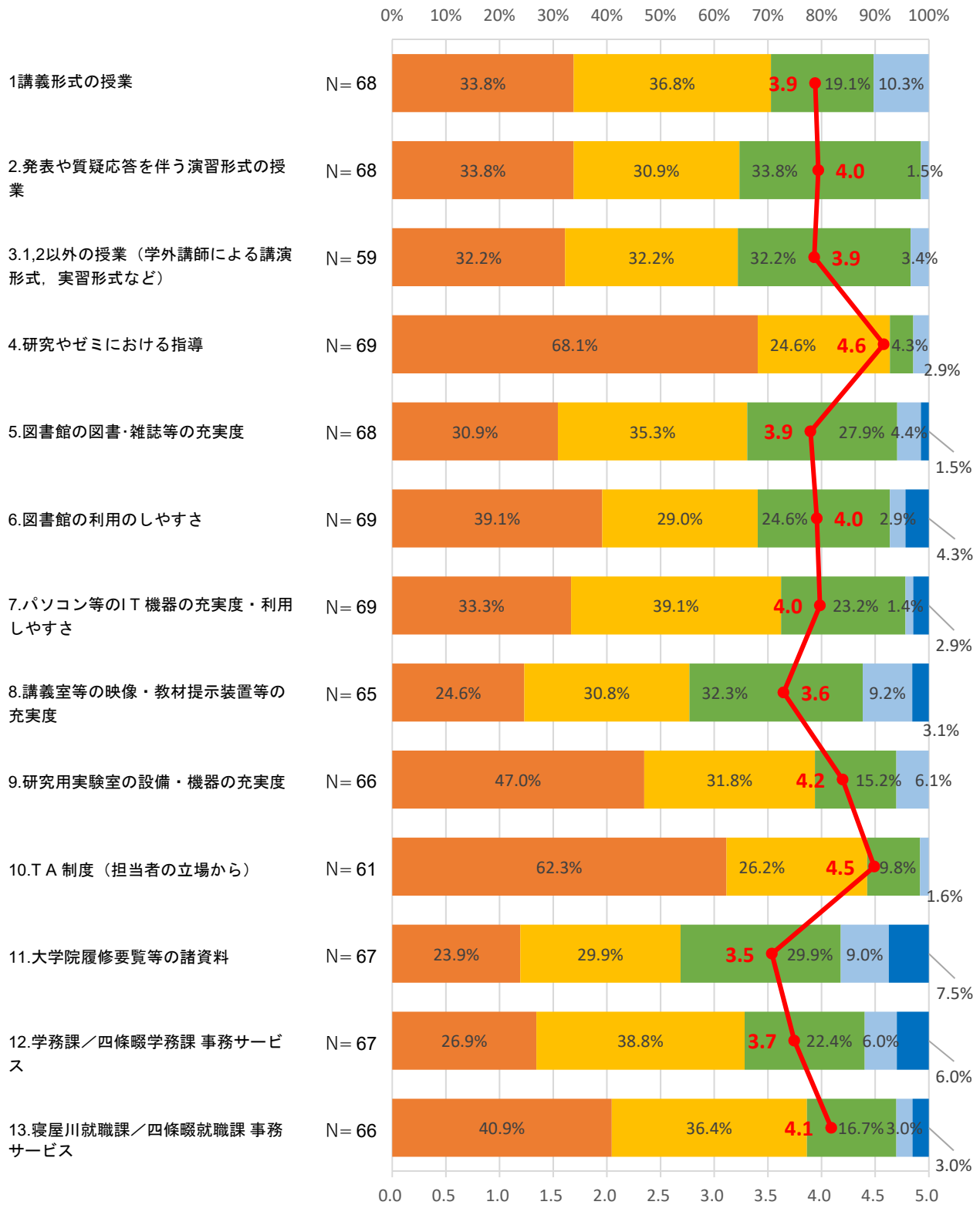
2021年度 修了生満足度調査

大学院全体：集計結果

◆本学での大学院教育を振り返り、以下の授業科目群や設備・機器などについて、全体的に評価してください。

■ 5.よかった ■ 4.ややよかった ■ 3.ふつう ■ 2.やや悪かった ■ 1.悪かった

選択肢別の割合(棒グラフ)



※Nは有効回答数

回答の平均値(線グラフ)

大学院

2021 年度

「修了生満足度調査結果の検討」

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 6 月 8 日

大学院工学研究科先端理工学コース

2021年度主任 安江 常夫

2021 年度は 11 名の学生が博士前期課程を修了した。その満足度調査の結果、総合評価では 10 点満点中 7.8 と前年度とほぼ同じポイント(2020年度は 7.7 ポイント)であった。これは、工学研究科全体の満足度 8.2 と比べて、やや低くなっている。本コースの満足度が低い理由としては、満足度を 5 と評価した学生がおり、これによって平均値が引き下げられたことが挙げられる。この 1 名を除けば、満足度は 8.1 となり、工学研究科全体の満足度とほぼ等しくなる。なぜ満足度を 5 と評価したかの理由は不明であるが、たとえ 1 名であっても本コースでの大学院生活を十分に満足させることができなかったという点については、今後改善が求められる結果であると考えている。

[A]のさまざまな知識や能力をどの程度獲得できたかという問いに対しては、全体平均で 5 点満点中 4.0 であり、2020年度より 0.2 ポイント上昇している。工学研究科全体では 3.8 であるので、それと比較して、より多くの知識・能力の獲得ができた実感した学生が多かった。個々の設問を見ていくと、「困難に直面してもそれに対処していく力」の評価が 4.5 と非常に高くなっている。大学院での研究において、さまざまな場面で指導教員の指導のもとで問題解決を図った結果がこの評価に表れていると思われる。その反面、「リーダーシップ」については 3.3 と前年度より 0.7 ポイント下がっており、コロナ禍で学部学生を指導する機会が減ったなどが影響をしたのではないかと思われる。今後は対面での研究活動が活発になると思われるので、評価の改善に取り組んでいきたい。

[B]の授業科目群や設備・機器などについては、全体平均が 4.1 となっており、前年度より 0.3 ポイントの改善が見られた。特に、「研究やゼミにおける指導」が 4.6 と高評価であった。本コースの先生方の努力によりこのような高い評価を得ることができ、今後も質の高い指導を継続していきたいと考えている。この項目で評価が低いのは、「大学院履修要覧等の諸資料」、「学務課事務サービス」であった。例年これらの設問に対する評価が低いのが、これはコースの努力では対処できない問題であり、事務部門でも満足度調査の結果を精査し、問題の解決に向けた具体的な対策の検討をお願いしたい。

自由記述で特に気がついた点としては、自分が所属する研究室以外の院生との交流が少なかったという声が多かったことが挙げられる。院生の研究成果の議論の場であるゼミナールがオンラインでの実施になったことも、院生間の交流の妨げになった理由の一つではないかと考えられる。コロナ禍が完全に収束するまでにはまだ時間がかかると思われるが、コロナとの共存の中で、院生間の交流を活性化させる取り組みを増やしていく必要があると思われる。これについては、継続して議論をしていきたいと考えている。

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 6 月 9 日

大学院工学研究科電子通信工学コース

2021年度主任 前川 泰之

大学院工学研究科電子通信工学コースでは 2021年度は9名が卒業し、そのうち8名からアンケート結果が提出されている。アンケート結果を見ると、[A]、[B]の各項目の満足度の合計は、前年の 2020 年度と比べ平均点で [A]では 0.1 ポイント減少し、[B]では 0.1 ポイント増加している。特に減少が著しいのは、[A]の項目では、1の幅広い分野における教養(前年度 3.9 から 3.4 へ 0.5 ポイント減少)、2の専門的な知識・技能(0.3 ポイント減少)、7の困難に直面してもそれに対処していく力(0.4 ポイント減少)、および8の国際的な視野(平均で 0.7減少)である。また[B]の項目では、1の講義形式の授業(0.4 ポイント減少)、3の1,2 以外の授業(0.3 ポイント減少)、および8の講義室等の映像・教材提示装置等の充実度(0.3 ポイント減少)という評価結果になっている。

全体の平均点の減少は、急にコロナ禍に見舞われた前年度の減少率の 0.5 ポイントに比べるとわずかではあるが、依然として各項目の減少傾向を個別に総括するに当たっては、やはり昨年度と同様にコロナ禍の影響を無視できない状況にあると言える。とくに、幅広い教養や専門的な知識・技能の修得に不満足を覚えるのは、大学院では必須である学会やシンポジウムでの発表の機会がほとんどリモート参加に制限されるなど、学外での学术交流や見聞を広める機会に対する減少の影響が十分に考えられる。特に国際的な視野に関しては、海外渡航が制限され、国際学会に参加する機会がほとんどなくなったことや、海外からの研究者の来日や来学もほとんど皆無となったことがその原因の一つと考えられる。次年度以降、国内のみならず海外への渡航や入出国規制の緩和による国際学会参加に対する機会の増加が、大学院教育の重要な課題の一つとして強く望まれる。

また、[B]の授業科目群や設備・機器の評価においては、前年度はほとんどコロナ禍で授業や研究室の指導も遠隔配信に頼らざるを得なかったのに対し、本年度の大学院はゼミナールを含めてほぼすべての授業を対面授業に戻すことが出来たことの影響が考えられる。しかしその割には授業関係の評価点は 0.3~0.4 ポイント減少している一方で、研究やゼミにおける指導に対する評価点は実に 0.6 ポイントも増加している。コロナ禍が継続する中でも本年度は各研究室の指導は対面で直接行えるようになったことの効果やはりこの数字に表れていると言える。また特に注目に値するのは、TA 制度に対する評価がやはり 0.6 ポイント増加している点であり、これも今年度は学部も実験や演習を中心に対面授業がほぼすべて復活し、大学院生も TA として遠隔ではなく教室や演習室で直接学部生と接する機会が増えたことが影響していると考えられ、自由記述でも TA の経験に対する感想についての記述がいくつか見受けられた。

以上のことから、今年度もコロナ禍が継続する中でもほぼ対面授業が大学院では復活し、学部でも増加したことの影響で、研究やゼミの指導や TA の経験等に対する評価の増加が見られた。また、図書館の利用や学務課等の事務サービスの評価も前年に比べて高まっているので今まで以上のサービスにこれからも務めて頂くことを願います。また対面授業の復活に関しても映像教材の工夫も含め、より一層の努力が望まれると言える。

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 5 月 27 日

大学院工学研究科制御機械工学コース

2021年度主任 山本 剛宏

2021 年度の修了生は、在学期間の2年間にわたりコロナ禍の影響を受けた学生であるが、総合評価は 8.4 点と高く、アンケートの回答から、コロナ禍の中でも、研究活動が続けられたことが高い評価につながっていることが窺える。以下に、各質問項目に対する検討内容を報告する。

まず、「獲得した知識と能力」については、概ね昨年度と同程度の評価であり、コロナ禍の影響下においても、研究活動が活発に行われ、能力の向上や知識の修得が達成された、多くの経験ができた、と感じる学生が多かったことが原因と考えられる。自由記述の回答からも、学会への参加を通じて他大学の学生や教員との交流ができたことや、他のグループの研究に触れて専門的な知見を広げられたことを良かった点として挙げる意見が見られる。大学院の最大の魅力は、卒業研究よりもはるかに高度な研究を行えることにあり、研究活動に対する満足度が高かったと評価されている点は、コースとして喜ばしい成果である。引き続き、学生が研究活動を通じて自身の能力向上ができるよう環境を提供していくことが望まれる。

しかし、「国際的な視野」については、他の項目に比べて低評価であり、長年、同様の傾向が見られる。これは、本学では、学生が海外の学生や研究者と交流する機会が少ないことが原因であると考えられるが、その改善のためには、大学全体で、学生の国際的活動に対する意欲を刺激する仕組みが必要と思われる。また、国際的活動のための道具として、英語能力の向上が必要となる。当コースでは、TOEIC 受験を推奨し、英語力の向上への自己研鑽を促しているが、大学院進学後ではなく、学部在学時からの取り組みを進めていくことも必要であると考えられる。

次に、「授業科目群・設備・機器」に関する検討結果を述べる。

授業およびゼミにおける指導については、比較的高い評価が得られている。特に、国際工学技術特論や産学連携特論など、社会で活躍する技術者を講師に迎えた授業に対する好評価の意見が多く見られた。このような取り組みを、今後も続けていくことは、学生が修了後の将来像を考える動機づけのためにも有用である。

また、授業内容については、学部授業との重複部分を減らし、より高度な内容とすることの希望や、学部科目との連続性がある科目が少ないことを指摘する意見がある。これは、当コースが電子機械工学科・機械工学科・環境学科の3学科の出身学生を基盤とする構成であるため、学科によっては、大学院の講義内容の基礎に対応する学部の講義が存在しない場合があることが、原因の一つであると考えられる。これについては、分野を絞って、学部授業と連続した、より高度な内容の授業を受講できるようなカリキュラムにするといった対応が考えられるが、将来のコースの教育方針も含めて、総合的な検討が必要である。

設備関連では、図書館に対する評価の昨年度からの上昇が顕著であった。研究活動における図書館の活用が、有効的に行われていたものと推察する。一方で、講義室の映像・教材提示装置については、昨年度からの評価の低下が大きい。経年による機器性能の相対的低下は否めないため、最新の機器の導入についても検討をお願いしたい。また、研究活動に対する満足度について高い評価を受けているものの、実験スペースの不足を指摘する意見も複数あり、今後、大学院の活性化のためには、大学院生の研究環境を充実し、研究を通じた学生の能力向上・知識の拡大・満足度の上昇のための基盤形成が望まれる。

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 6 月 9 日

大学院工学研究科工学専攻情報工学コース

2021 年度コース主任 来海 暁

今年度の当コースの総合評価(9.0 点)は、過去 4 年間(2017 年度:7.4, 2018 年度:10.0, 2019 年度:9.0, 2020 年度:7.8)と比較すると、2018 年度よりは低いが、2019 年度と同じであり、2017・20 年度よりも大幅に高くなっている。今年度の修了生数は 7 名であったが、2017 年度が 9 名であったのに対し 2018・19 年度は 4 名以下、2020 年度は 6 名であり、標本数が少ないことから評価点自体を単純に比較するのは難しい。しかし、2021 年度修了生は大学院在学期間がすべてコロナ禍と重なり、さまざまな点で不自由を被っていたことを踏まえると、総合評価の点数が非常に高いということは注目に値する。

授業に関しては、コロナ禍の 2 年間を通じて大半の科目が遠隔で実施されていたが、平均は 4 以上であった。当コースの特性として、ほとんどの学生が大学入学時より個人でノート PC を所有し、かつその時点から長期にわたってネットワークを含む PC の設定や学内のクラウド環境に習熟していたことから、遠隔授業にも支障なく対応できたものと考えられる。発表形式の「ゼミナール」は、1 年目は遠隔で実施されたが、このような形態でも十分に授業として成立していた。2 年目である 2021 年度は面接に戻ったが、遠隔の場合に比べて学生間での質疑応答が活発に行われていた。その点が評価に反映されたものと考えられる。

主に研究に関連する、教養、知識・技能、論理的思考力、判断力、創造力等の指標については、一部を除いて昨年度の平均を上回っている。1 年目はコロナ禍、特にアルファ株やデルタ株の大流行により学内滞在の時間や人数に関して強い制限が加えられ、学生はかなりの不自由を強いられた。一方、2 年目はオミクロン株への置き換えにより感染者は増加したが、学内や研究室での感染対策や 2 回にわたるワクチン接種もあり、研究室の環境が徐々にコロナ禍以前の状態に戻りつつあった。このため、研究に対して 1 年目よりも集中して取り組むことができるようになり、それが評価の向上につながったと思われる。また昨年度に続き、困難に立ち向かう力を最高点の 5 としている学生が多かった。研究環境の不自由さを乗り越えて学会発表を行い、修士論文を仕上げたことに加え、就職活動においても対面でのインターンシップがなくなったりする中で、自主的に行動し内定を勝ち取ったという体験が大きな自信につながったものと思われる。

国際的な視野に関する評価が非常に低いのは例年と同じであるが、2021 年度修了生はコロナ禍により海外に出張する機会に全く恵まれなかったことが評価の低さに影響していると思われる。国際会議に参加する大きな意義は海外の研究者と対面で交流することであるが、投稿しても発表はすべてオンラインもしくは録画で行われるのみであった。この点は大変気の毒であり、学生の評価から失望が強く窺える。今後はコロナ禍が終息に向かい、以前のように学生も海外の国際会議に出張できるようになることを切に願っている。

一方、リーダーシップや協調性に関する評価が低くなっているのが気になる。学部生があまり来ない研究室もあり、このような力を養う機会があまり得られなかったものと考えられる。

最後に、自由記述として新棟の研究室に関する意見が複数あったことを指摘しておく。新棟はオープンスペースのコンセプトの下に設計されているが、修了生からは個人スペースやプライバシーに対する不満や要求が出されている。研究室の大きな魅力の一つが、外部と隔てられることによって作り出される独自の空間というところであり、それが大学院進学への動機の一つの大きな要因になっていることが、この点からも分かる。学生が満足して研究に没頭できる環境の在り方を全学的に今後も追求する必要があると考える。

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 6 月 24 日

大学院総合情報学研究科デジタルアート&アニメーション学コース

2021 年度主任 原 久子

知識や能力などどの程度習得したかという問いに、教養、知識・技能、論理的思考、判断力、課題に取り組む力など 1～7 の問いに対しては十分獲得したという回答だ。しかし、国際的な視野になると急激にポイントが落ちた。

これは院生自身の興味の対象というところに限らず、コロナ禍に因るものか、一部の大学院担当教員の国際的な視野の欠如がそのまま回答に反映されたのか、を解明して善処したい。

授業科目群や設備・機器についての評価について、前年平均より全体的に低くなっている。IT 機器の充実度・利用しやすさという点はかなり低く採点した者もあり、コロナ禍によるものなのか、理由を明らかにし、改善する必要を感じる。

「就職関係の業務対応が特定の教授に偏っている」という回答があるが、大学院での就職に関しては、それぞれの研究室で独自に進めており、教員がそれぞれ様々な役割分担をして動いていることを理解せず記していると考えられる。

ポイントが低かった国際性、IT 機器の充実具合に関しては、院生のニーズを確認し、また院生から見えていない大学院の知的資源の蓄積も可視化して、広い視野を持って社会に巣立ち、貢献してもらえるように努めたい。

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 6 月 13 日

大学院総合情報学研究科デジタルゲーム学コース

2021年度主任 高見 友幸

今回の調査結果では、知識や能力の獲得に関する質問[A]は 4.2(昨年度は 3.9), 大学院教育や設備・機器に関する質問[B]は 4.2(昨年度は 4.0), 教育の全体を考慮した総合評価[C]は 8.8(昨年度は 8.2)といずれも前年度より高い評価となった。高評価の中でのさらなる評価上昇であり、研究面、教育面、設備および事務面のいずれにおいても特段の問題点はないと考える。

個別に見れば, [A]の「物事を論理的に考える力」が 4.6, [B]の「研究やゼミにおける指導」が 4.8、「TA 制度(担当者の立場から)」が 4.6 と高く、一方、[A]の「リーダーシップ」が 3.7, [B]の「図書館の利用しやすさ」が 3.5 と相対的には低い評価であった。「図書館の利用しやすさ」についての低評価は、デジタルゲーム学コースという研究分野の性質上、研究テーマに関連する蔵書数の少なさという点があるかも知れない。今後の検討課題として残る。

評価 3 以下の回答がなかった項目(全員が 5 か 4 の高評価とした項目)は、「物事を論理的に考える力」「研究やゼミにおける指導」「TA 制度(担当者の立場から)」で、評価の平均は、それぞれ、4.6、4.8、4.6 である。この 3 項目については、全体の回答人数が 10 人であることから考えて有意な高評価であろう。2021 年度修了生はコロナ禍の影響を受け、修士 2 年間のほぼ全期間で通常と異なる研究状況にあった。研究への影響が懸念されたが、満足度調査結果には問題として現れていない。これは、2021 年度の修士論文／修士制作の発表内容が例年と比べ遜色のなかったことから妥当な結果であろう。また、TA 制度もうまく機能しているものと思われる。

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 6 月 9 日

大学院総合情報学研究科コンピュータサイエンスコース

2021年度主任 升谷 保博

本コース(2020 年度まではコンピュータサイエンス専攻)の総合評価の平均値は、2019→2020→2021 年度で 8.3→8.2→7.3 と変化しており、2021 年度に大きく評価を下げている。分布を比較すると、2020 年度は 5~7 の区間が 1 人に対して、2021 年度では同区間が 4 人に増えている。しかし、その原因をこの調査結果から推測するのは難しい。

設問[A]「本学での大学院生活をとおして、あなたは次のような知識や能力などをどの程度獲得したと思いますか?」については、全項目の平均値は、2019→2020→2021 年度で 3.5→3.7→3.8 と推移しており、2 年連続でわずかに上昇している。この中で他の項目に比べると、「8 国際的な視野」の評価が低く(2.9, 2.6, 2.5), また、四條畷キャンパスの修了生の平均値(3.5, 3.3, 3.2)や全学の修了生の平均値(3.4, 2.9, 2.8)よりも低い。これは、本コースの今後の重要な課題である。なお、この設問の自由記述の回答は「発表力」という一つだけであった。

設問[B]「本学での大学院教育を振り返り、以下の授業科目群や設備・機器などについて全体的に評価してください。」については、全項目の平均値は、2019→2020→2021 年度で 4.0→4.0→3.8 と推移しており、2020 年度から多くの項目で評価が下がっている。下げ幅の大きい項目は、「8 講義室等の映像・教材提示装置等の充実度」(4.1→3.3), 「1 講義形式の授業」(4.4→3.7), 「2 発表や質疑応答を伴う演習形式の授業」(4.4→3.9)である。いずれの項目も評価を 2 と回答した学生がいる。これらは、コロナ禍による授業形態の変化の影響と推測されるが、今後の推移を慎重に見守りたい。この設問については自由記述の回答はなかった。

自由記述には、肯定的な内容が多かったが、改善を求めるような内容で具体的なものとして以下があった。

- コミュニケーションの機会を増やす
- 授業数に対する授業料の高さ
- 講義室の設備の老朽化の改善
- 学部生が大学院を知る機会がない
- 大学院の学費が高い
- 学部生との交流がもう少し欲しかった

「コミュニケーション」「交流」に関する意見はコロナ禍の影響で対面の授業やイベントが減ったことに起因していると思われる。大学に長く在籍した修了生の声にはしっかりと耳を傾ける必要がある。

以上

2021 年度修了生満足度調査結果検討報告書

2022 年 6 月 9 日

大学院 医療福祉工学研究科 医療福祉工学専攻

2021年度主任 田中 則子

設問[A]本学での大学院生活を通して獲得した知識や能力においては、すべての項目で 3.0以上、平均 3.7 であった。各項目を見ると、12 項目中 6 項目において昨年度と比較してポイント向上または維持していた。特に「1 幅広い分野にわたる教養」については前年度に比して0.6ポイント向上していた。これは、活動の制限が多い中で、各教員が学生へ多様な情報に触れる機会を工夫してきた成果であると考えている。一方、「8 国際的な視野」、「11 他人と協調して主体的に物事に取り組む力」、「12 新たな課題を発掘して解決していく創造力」のポイントが低下していた。これには、コロナ禍での活動制約が大きく影響していると考えられた。市中の感染状況もかなり落ち着いてきていることから、今後は、さらに積極的に他者との交流や活動の拡大が図れるように工夫していきたい。

設問[B]本学での大学院教育(授業科目群、設備・機器など)においては、平均 4.0で昨年度と同程度であった。その中でも、「7 パソコン等の IT 機器の充実度・使用しやすさ」は前年度に比して0.6ポイント向上していた。活動が制限される中、各教員の工夫や MC2 の多大なご尽力によって、IT 機器使用のよい環境が提供できたことは、学生たちにとって非常に有益であったと考えられ、ここに感謝の意を表したい。その一方で、「学外講師の講演や実習形式の授業」「図書館利用」、「大学院履修要覧などの諸資料」、「事務サービス」の満足度が低下していた。これもコロナ禍の影響は否めない。こちらについても、感染対策には十分留意しながら、講演会等開催の活発化、図書館利用のさらなる充実にむけて、専攻内の各担当教員および事務部門と協力して改善につとめていきたい。

設問 [C]本学での大学院教育に対する総合評価は 8.3 ポイントで、昨年度にはわずかに及ばなかったが、ほぼ同程度の満足度が得られたことはよかった。自由記載欄には、学生自身の成長が感じられる記載が多く、活動制限がある中で各教員が個々の学生指導に懸命に取り組んできた成果であると考えられた。しかし、2 年前の総合評価 8.8 とは0.5ポイント低下している。[A][B]で課題であった点を、コロナ禍以前の状況へ戻していけるよう、さらに教員間で連携して大学院教育向上に努めていきたいと考えている。

■参考

当報告書と合わせ下記の資料が参考となることを、添えておきます。

『教育基本3方針（ポリシー）』

<http://www.osakac.ac.jp/about/policy/>

2022年6月
教育開発推進センター
寝屋川キャンパスA号館1F
〒572-8530 寝屋川市初町18-8・内線：3129
ced-office@osakac.ac.jp